

京丹後市の環境に関する
市民・事業者の意識調査

平成 30 年 3 月

京丹後市

目 次

1.	調査の概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査概要	1
①	調査対象	1
②	調査方法	1
③	調査期間	1
④	調査項目	1
⑤	配布・回収状況.....	2
⑥	留意点	2
2.	調査結果	3
(1)	結果概要	3
①	市民意識調査.....	3
②	事業者意識調査.....	5
(2)	市民意識調査結果.....	7
(3)	事業者意識調査結果.....	38

1. 調査の概要

(1) 調査目的

本市では、平成 21 年度に京丹後市環境基本計画を策定し、「古代から未来へ 自然美ゆたかな歴史と文化のまち 京丹後」を環境像として掲げ、環境施策に取り組んできた。

一方で、地球温暖化の進行やそれに伴う気候変動などの影響が予測されており、本市においても実行的な地球温暖化対策が求められており、そこで、本市の環境との共生、さらに地球温暖化対策の実行に向けた区域施策を示す、第 2 期京丹後市環境基本計画を来年度新たに策定する予定である。

このアンケートは、新たな計画の策定に役立てるため、市民や事業者を対象に、環境や地球温暖化に関する意識や取組状況、市の取り組みへの意見等を把握し、次期計画策定に反映することを目的に実施した。

(2) 調査概要

① 調査対象

ア) 市民意識調査

市内在住の市民（18 歳以上の男女から 1,300 人を無作為に抽出）

イ) 事業者意識調査

市内の事業者（従業員数が 5 人以上の 200 社を無作為に抽出）

② 調査方法

郵送により配布・回収を行った。

③ 調査期間

平成 30 年 1 月 22 日～平成 30 年 2 月 5 日

（※締切後に返送された調査票についても集計に加えています。）

④ 調査項目

ア) 市民意識調査

- 1) 属性
- 2) 周辺環境に関する評価、考えについて
- 3) 環境に関する取組内容について
- 4) 地球温暖化対策、気候変動、エネルギーに関する認知度、意向について

イ) 事業者意識調査

- 1) 属性
- 2) 環境に関する考え、取組体制について
- 3) 地球温暖化対策、気候変動、エネルギーに関する意向、取り組み状況について

⑤ 配布・回収状況

配布・回収状況は、下記のとおりです。

	配布数	回答者数	回答率
市民	1,300	507	39.0%
事業者	200	90	45.0%

⑥ 留意点

- ・ 集計では、小数点第1位を四捨五入しており、数値の合計が100%にならない場合がある。
- ・ 各グラフにある「単数」あるいは「複数」の文言は、設問での回答できる数を示している。回答できる数が1つであれば「単数」、2つ以上であれば「複数」となっている。また、「N＝」で示された数字は回答者数（母数）を示している。

2. 調査結果

(1) 結果概要

① 市民意識調査

〔属性〕

- ・ 60歳以上が半数以上、居住年数も「20年以上」が8割程と、市内に長年在住している高齢者の回答が多く、調査結果にはその意向が大きく反映されている。

〔周辺環境に関する評価・考えについて〕

- ・ 「満足」と「まあ満足」をあわせた『満足』しているものとしては、「分別収集によるリサイクルの推進」や「ごみ処理体制」などの**ごみ収集・処理**や、「工場などの悪臭」、「工場や家庭、自動車などの騒音」、「下水道などの生活排水」などの**生活環境**が多くなっている。一方、「やや不満」と「不満」をあわせた『不満』なものとしては、「有害鳥獣被害軽減のための対応・整備」や「不法投棄やポイ捨て防止などの環境美化」が多くなっている。
- ・ **前回調査と比較すると、「公共交通機関の整備」以外の項目では向上している**。「不法投棄やポイ捨て防止などの環境美化」は、満足度は低いものの前回よりは向上している。「有害鳥獣被害軽減のための対応・整備」は前回調査で実施していないため比較できない。
- ・ **改善が必要と思う項目は、「有害鳥獣被害軽減のための対応・整備（生活環境分野）」が最も多く、次いで「不法投棄やポイ捨て防止などの環境美化」。「公共交通機関の整備」は20歳代と40歳代で4割程度と多い。**
- ・ 京丹後市全体の**環境政策を進めていくうえで重要だと思う項目は、「有害鳥獣被害軽減のための対応・整備（生活環境分野）」が最も多く、次いで「不法投棄やポイ捨て防止などの環境美化」、「公共交通機関の整備」となり、改善が必要と思う項目と同様の結果となっている。**

〔環境に関する取組内容について〕

- ・ 普段の生活での取り組みとしては、「資源ごみの分別や資源物の回収に協力する」、「 unnecessary 電気のスイッチはこまめに消す」、「詰め替えできる商品を買う」、「自動車を運転する際には、不要なアイドリング、空ぶかし、急発進などをしないようにしている」に8割以上の市民が取り組んでいる。**実践しやすいごみ分別・回収や暮らしの中での省エネ行動の取り組みが多い。**
- ・ 一方、「外出の際には、なるべく自家用車を使わず、バスなどの公共交通機関、徒歩、自転車などを利用している」は半数以上が「実践するつもりはない」と回答している。
- ・ 50歳以上の半数以上が、21項目中11項目以上に取り組んでおり、**環境への意識が高い市民が多い**と思われる。一方で**30～39歳では4割未満と他の年齢層と比べて少ない。**
- ・ 今後も**実践しない理由としては、時間や手間、お金など項目によって異なるが、負担がかかることへの抵抗がある**ことがわかる。
- ・ 情報、知識の入手先としては、「テレビ・ラジオ」が最も多く、次いで「経済・雑誌・書籍」

となっている。

〔地球温暖化対策・気候変動・エネルギーに関する認知度・意向〕

- ・ **「パリ協定」の認知度**について、「**名前は聞いたことがある**」が6割以上、「**内容まで知っている**」は15%であった。性別では男性の方が認知度が高く、年齢別では20～29歳の認知度が高く、30～39歳の認知度が低い。
- ・ 地球温暖化の日常生活への影響については、「知っている」が9割近い。
- ・ 地球温暖化による影響で問題だと感じる項目としては、「洪水、高潮・高波などの自然災害が増加すること」が最も多く、次いで「農作物の品質や収量が低下すること」、「豪雨による停電や交通マヒなどインフラ・ライフラインに被害が出ること」、「洪水による土砂流出等で河川や海域の水質が悪化すること」となっている。
- ・ **気候変動への「適応」の認知度**について、「**大体知っていた**」が5割弱、「**内容まで知っている**」は3%であった。年代別でみると、20歳～29歳で「内容まで知っている」が他の年代と比べて多い。
- ・ **「COOL CHOICE」の認知度**について、「**知らない**」が半数を超え、「**名前は聞いたことがある**」が4割弱、「**内容まで知っている**」は4%であった。年代別でみると、20～39歳で「内容まで知っている」が他の年代と比べて多い。
- ・ 電力・ガスの購入先について、電気は「変更した」と「今後見直す予定」をあわせて約2割、ガスは1割強であった。変更・見直しの理由としては、「料金が安くなるから」が最も多い。

○全体を通して

- ・ 周辺環境に関する評価から、市内のごみ収集・処理や公害対策などの生活環境への満足度が高い。前回調査と比較しても全体的に評価が向上しているが、不法投棄やポイ捨て防止などまちの環境美化については、まだ不十分と認識されている。また新たな課題として、有害鳥獣被害軽減のための対応・整備が求められている。さらに、特に若い世代において、公共交通機関の整備が課題と認識されている。
- ・ 多くの市民が普段の生活の中で環境への取組を行っており、市民の環境意識は高いと思われる。一方で、公共交通機関等の利用については半数以上が実践するつもりはないとしており、利用したいと思う公共交通機関等の整備が求められている。また、30～39歳では環境への取組が少なく、また情報の入手も、環境に関する言葉の認知度も全体的に他の年齢層と比べて低いことから、ターゲットを絞った普及啓発が求められる。
- ・ 言葉の認知度については、名前を知っている、大体知っている人は4～6割であったが、内容まで知っている市民は少ない状況である。

② 事業者意識調査

〔属性〕

- ・ 製造業（飲食以外）が最も多く、従業員数が「1～20 名」の事業者が 6 割以上を占める。

〔環境に関する考え、取り組み体制について〕

- ・ 環境の保全と経済の発展について、**環境の保全を優先すべき（環境の保全を最優先する、経済の発展を多少犠牲にしても経済の発展を優先する）**と回答した事業者が、3 割以上を占める。
- ・ 環境保全の取り組みの実践について、実践している事業者は、6 割以上を占め、今後実践したいとしている事業者は、3 割以上を占める。**9 割以上の事業者が、環境保全の取り組みを実施・検討**している。
- ・ 環境マネジメントシステムの認証の取得について、取得している事業者（全社、事業者単位）は 2 割以上を占める。また、従業員数別にみると、従業員数が多い事業者ほど取得している傾向にあり、「1～20 名」の事業者では、4 割の事業者が取得する予定がないと回答している。
- ・ 取得している種類については、「KES」と最も多く、次いで「ISO14001」と続く。

〔環境に関する取り組み内容について〕

- ・ 環境保全の取り組みの実施内容について、「照明・空調に係る高効率機器等を導入している（LED、高効率空調等）」が最も多く、次いで、「事業活動で発生するごみの排出抑制やリサイクルに努めている」と続く。
- ・ また、今後実施したい取り組みについて、「事業活動で発生するごみの排出抑制やリサイクルに努めている」が最も多く、次いで、「照明・空調に係る高効率機器等を導入している（LED、高効率空調等）」と続く。
- ・ 取り組みの実施内容、今度実施したい取り組みから、**多くの事業者が、ごみの減量・資源化の推進、省エネの推進を実施・検討**している。
- ・ 環境保全に取り組む理由について、「製品もしくは事業活動が環境に関わっており、取り組む必要があると考えているから」が最も多く、次いで、「特に理由はない」と続く。
- ・ **環境に関する情報、知識の入手先について「テレビ・ラジオ」が最も多く、次いで、「新聞・雑誌・書籍」と続く。**また、環境への意識別にみても、全ての意識層のほとんどが、「テレビ・ラジオ」、「新聞・雑誌・書籍」から環境の情報を得ており、大きな差はみられなかった。
- ・ 環境保全や環境負荷の低減に向けた取り組みを進めていく上での課題について、「労力・費用負担が大きい」が最も多く、次いで、「取り組みのための人材の確保・育成が困難」、「具体的な方法に関する情報がない」と続く。**半数以上の企業が、労力・費用負担の大きさを課題**としている。

〔地球温暖化、気候変動、エネルギーに関する意向、取り組み状況について〕

- ・ 気候変動の影響について、「熱中症や熱帯性の伝染病の増加、労働効率の低下など従業員の

健康への影響」が最も多く、次いで、「降雪、海浜の環境や、植生・自然生態系の変化に伴う事業活動への影響」と続く。

- ・ **また、最も影響が大きいものとしても、「熱中症や熱帯性の伝染病の増加、労働効率の低下など従業員の健康への影響」が最も多く、全業種に関わる、「人への影響」が懸念**されている。
- ・ パリ協定や RE100 など地球温暖化対策の動きについて、「国等の誘導策などあれば考えていきたい」が最も多く、次いで、「国等の規制等があれば考えていきたい」と続く。**「国等の規制等があれば考えていきたい」、「国等の誘導策などあれば考えていきたい」を含めると RE100 を検討している事業者は 7 割以上を占める。**
- ・ 地球温暖化対策のための設備投資や他の地球温暖化対策を行うための条件として、**「設置費用負担の軽減（価格低下など）」が最も多く、次いで、「資金の確保」と続く。**
- ・ BCP の策定について、6 割以上の事業者が「策定の予定はない」と回答しており、2 割以上の事業者が BCP を策定・検討する（「策定している」「現在は策定していないが、策定の予定あり」）と回答している。また、業務部門、産業部門共に、「策定の予定はない」が約 6 割を占めている。
- ・ 「自治体単位等、地域で自立したエネルギーを確保すべき」が最も多く、次いで、「エネルギー供給者の責任においてエネルギーを確保すべき」と続く。**8 割以上の事業者が、いずれかの方法でエネルギーを確保すべきと回答**している。
- ・ **市による支援について、半数以上の事業者が、「補助制度や助成、税制面の優遇」、「環境保全に関する情報の提供」と回答**している。
- ・ 従業員数別にみると、「1～20 名」、「21～50 名」においては、半数以上が「補助制度や助成、税制面での優遇」と回答しており、最も多い。「50 名以上」においては、約 7 割以上が「環境保全に関する情報の提供」と回答しており、最も多い。

○全体を通して

- ・ 9 割以上の事業者が、環境保全の取り組みを実施・検討していることから、事業者の環境への取り組み意識は高いことがわかる。また、パリ協定や RE100 など地球温暖化対策の動きに対して、約 7 割の企業が国の規制や誘導策があれば考えていきたいと前向きな方針を持っている。
- ・ 一方で、環境保全や環境負荷の低減に向けた取り組みを進めていく上では、事業者の費用・コスト負担の大きさ、取り組みを担う人材、具体的な方法の情報不足が課題と認識されている。また、地球温暖化対策のための取り組みにおける条件としても、費用負担の軽減や資金確保など経済的負担が挙げられていた。
- ・ 市に期待する支援としても、経済的支援や環境保全に関する情報提供などの要望が多く、事業者が、環境保全の取り組みを実施するためのノウハウや、環境保全に関する情報提供、費用面等での支援が求められる。

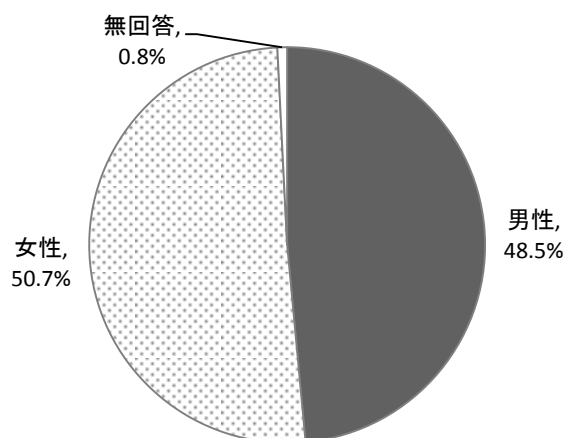
(2) 市民意識調査結果

以下に、各問の調査結果を示す。

問1-1 性別

- ・ 「男性」が 48.5%、「女性が」50.7%となっている。

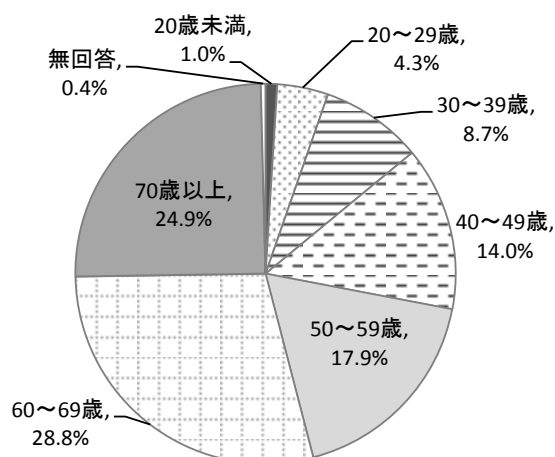
性別（単数、N=507）



問1-2 年齢

- ・ 「60～69 歳」(28.8%) が最も多く、次いで「70 歳以上」(24.9%)、「50～59 歳」(17.9%)、「40～49 歳」(14.0%) と続く。60 歳以上が過半数を超えている。

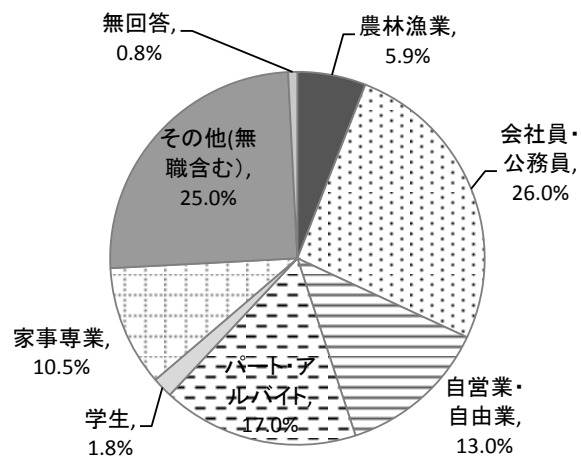
年齢（単数、N=507）



問1-3 職業

- ・ 「会社員」(26.0%) が最も多く、次いで「その他(無職含む)」(25.0%)、「パート・アルバイト」(17.0%)、「自営業・自由業」(13.0%) と続く。

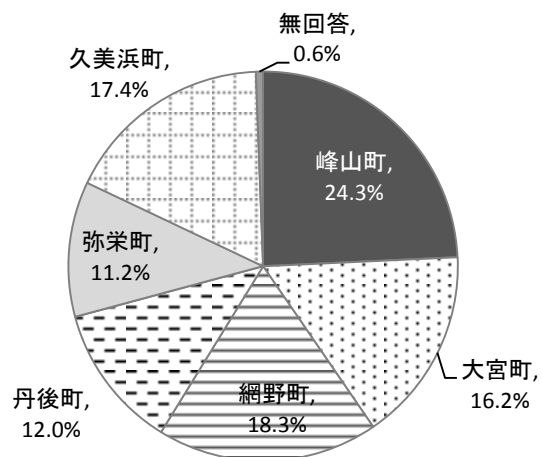
職業（単数、N=507）



問1-4 居住地域

- ・ 「峰山町」(24.3%) が最も多く、次いで「網野町」(18.3%)、「久美浜町」(17.4%)、「大宮町」(16.2%) と続く。

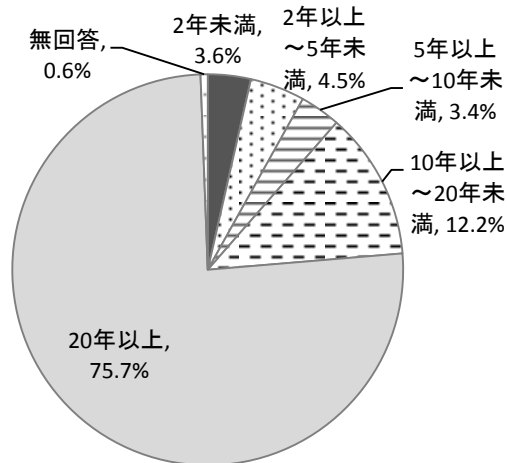
居住地域(単数、N=507)



問1-5 居住年数

- ・ 「20年以上」(75.7%) が最も多く、次いで「10年以上20年未満」(12.2%)、「2年以上5年未満」(4.5%)、「2年未満」(3.6%) と続く。

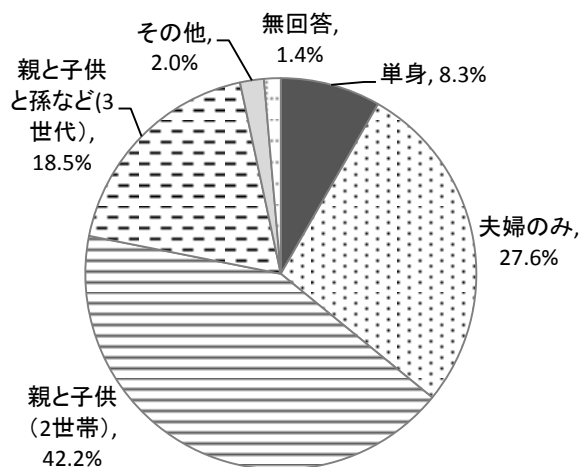
居住年数(単数、N=507)



問1-6 世帯構成

- ・ 「親と子供(2世帯)」(42.2%) が最も多く、次いで「夫婦のみ」(27.6%)、「親と子供と孫など(3世代)」(18.5%)、「単身」(8.3%) と続く。

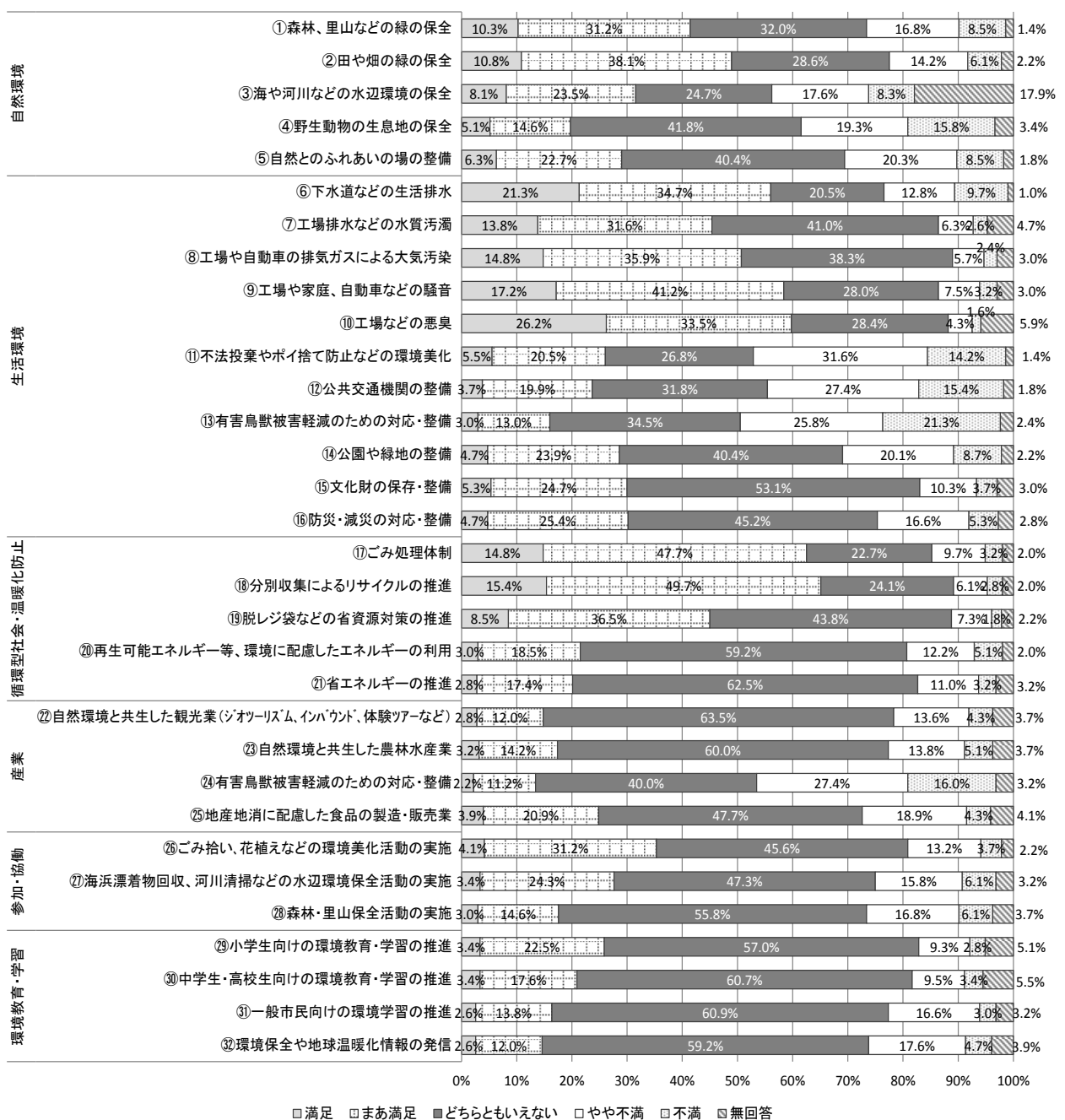
世帯構成(単数、N=507)



問2. お住まいの周辺環境（身近な環境）の状況

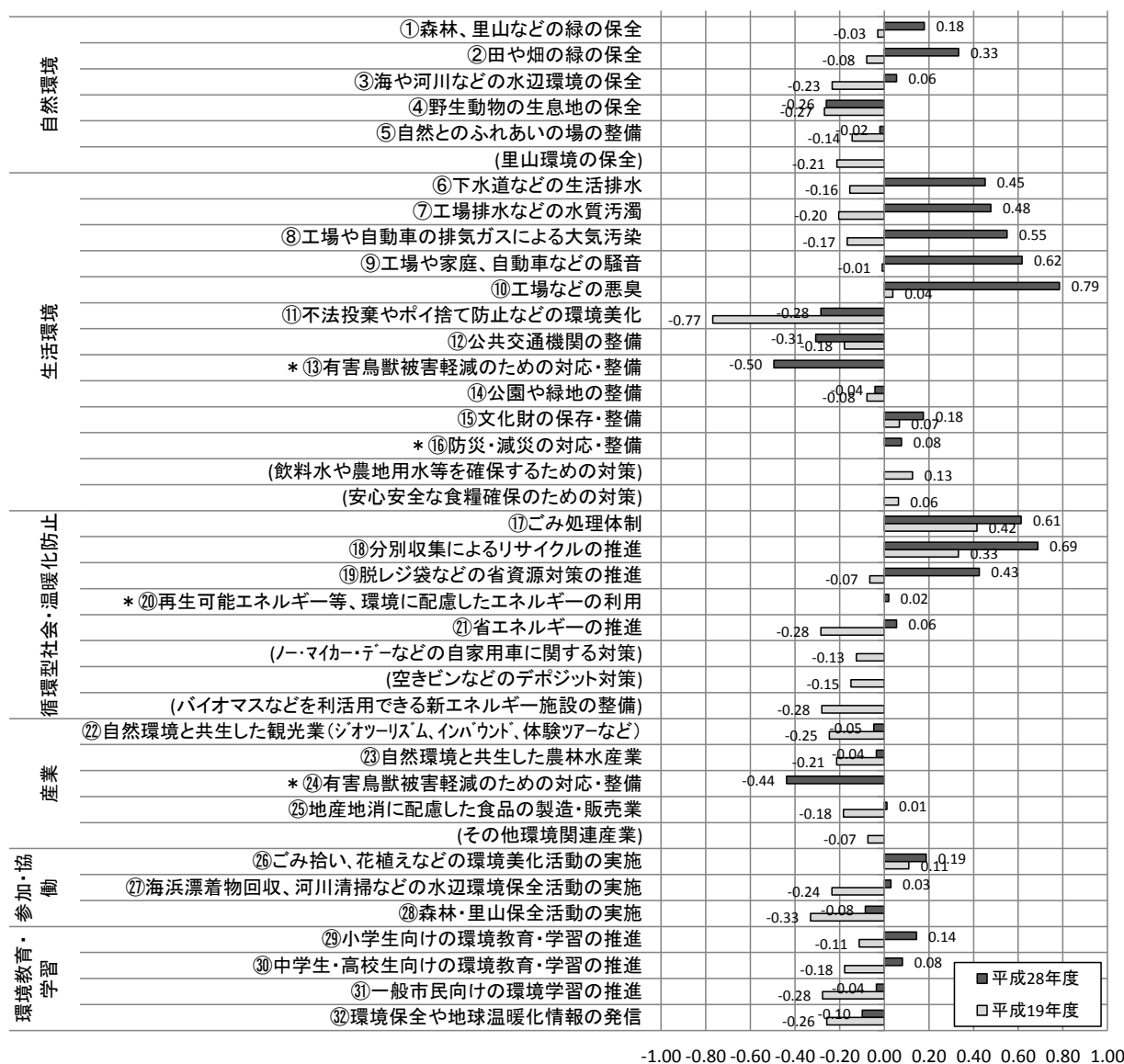
- ・ 「満足」が多い項目は、「工場などの悪臭」（26.2%）が最も多く、次いで、「下水道などの生活排水」（21.3%）、「工場や家庭、自動車などの騒音」（17.2%）と続く。
- ・ 「満足」と「まあ満足」をあわせた『満足』が多い項目は、「分別収集によるリサイクルの推進」（65.1%）が最も多く、次いで「ごみ処理体制」（62.5%）、「工場などの悪臭」（59.7%）、「工場や家庭、自動車などの騒音」（58.4%）、「下水道などの生活排水」（56.0%）と続く。
- ・ 一方、「やや不満」と「不満」をあわせた『不満』が多い項目は、「有害鳥獣被害軽減のための対応・整備」（47.1%）が最も多く、「不法投棄やポイ捨て防止などの環境美化」（45.8%）となっている。

お住まいの周辺環境の状況について（単数、N=507）



〔前回調査との比較〕

- ・ 前回調査との比較を行うため、満足度を点数化して比較した。点数化においては、各回答において「満足」を2点、「まあ満足」を1点、「どちらともいえない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点とした上で回答者の平均値を算出した。なお、前回しか質問しておらず比較できない項目については括弧書きで記述している。
- ・ 比較できる項目においてみると、「公共交通機関の整備」のみ満足度が低下したが、それ以外の項目においては向上している。

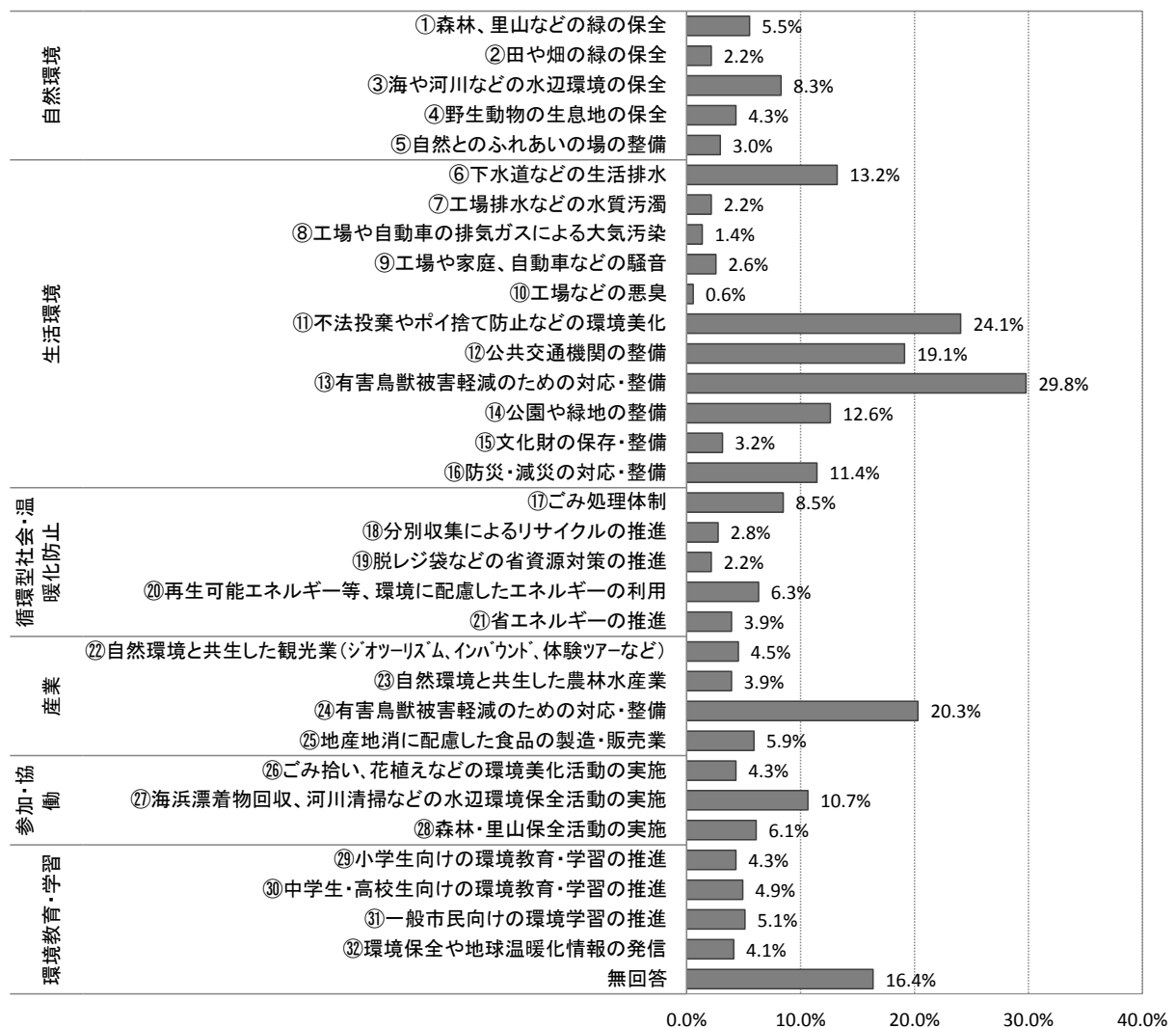


*は今回のみの調査項目。()は前回のみの調査項目

問3. 今後、お住まいの周辺環境の状況をよりよくしていくために改善が必要だと思う項目

- ・ 「有害鳥獣被害軽減のための対応・整備（生活環境分野）」（29.8%）が最も多く、次いで「不法投棄やポイ捨て防止などの環境美化」（24.1%）、「有害鳥獣被害軽減のための対応・整備（産業分野）」（20.3%）「公共交通機関の整備」（19.1%）、「下水道などの生活排水」（13.2%）、「海浜漂着物回収、河川清掃などの水辺環境保全活動の実施」（10.7%）と続く。
- ・ 年齢別でみると、「有害鳥獣被害軽減のための対応・整備」は、生活環境分野ではいずれの年齢でも上位となっているが、産業分野では50～59歳で17.6%、60～69歳で26.7%、70歳以上で27.0%と、高い年齢層で多くなっている。「不法投棄やポイ捨て防止などの環境美化」も50～59歳で29.7%、60～69歳で24.7%、70歳以上で28.6%と、高い年齢層で多くなっている。
- ・ また、「公共交通機関の整備」が20～29歳では40.9%、40～49歳では40.8%と4割を占めている。

周辺環境の改善が必要だと思う項目（複数、N=507）



〔性別・年齢別〕

		自然環境						生活環境									
	回答者数	全 ①森林、 里山などの緑の保 全	②田や畑の緑の保全	③海や河川などの水辺環境の保全	④野生動物の生息地の保全	⑤自然とのふれあいの場の整備	⑥下水道などの生活排水	⑦工場排水などの水質汚濁	⑧工場や自動車の排気ガスによる大気汚染	⑨工場や家庭、自動車などの騒音	⑩工場などの悪臭	⑪不法投棄やポイ捨て防止などの環境美化	⑫公共交通機関の整備	⑬有害鳥獣被害軽減のための対応・整備	⑭公園や緑地の整備	⑮文化財の保存・整備	⑯防災・減災の対応・整備
性別																	
男性	246	7.7%	3.3%	10.2%	4.1%	2.8%	16.3%	3.3%	1.2%	2.0%	0.8%	21.5%	17.5%	32.9%	12.2%	4.9%	12.2%
女性	257	3.5%	1.2%	6.6%	4.7%	3.1%	10.5%	1.2%	1.6%	3.1%	0.4%	26.8%	21.0%	26.8%	12.8%	1.6%	10.9%
年齢別																	
20歳未満	5	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	40.0%
20～29歳	22	4.5%	4.5%	9.1%	0.0%	4.5%	9.1%	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%	13.6%	40.9%	18.2%	18.2%	0.0%	13.6%
30～39歳	44	2.3%	2.3%	6.8%	4.5%	2.3%	13.6%	4.5%	2.3%	2.3%	2.3%	13.6%	22.7%	22.7%	27.3%	4.5%	13.6%
40～49歳	71	5.6%	8.5%	14.1%	5.6%	1.4%	8.5%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	18.3%	40.8%	19.7%	16.9%	2.8%	15.5%
50～59歳	91	9.9%	1.1%	11.0%	2.2%	3.3%	13.2%	2.2%	1.1%	1.1%	1.1%	29.7%	15.4%	26.4%	12.1%	5.5%	14.3%
60～69歳	146	6.8%	1.4%	6.8%	7.5%	3.4%	11.6%	1.4%	2.1%	3.4%	0.7%	24.7%	13.0%	34.2%	9.6%	3.4%	11.0%
70歳以上	126	2.4%	0.0%	5.6%	2.4%	3.2%	18.3%	3.2%	1.6%	4.0%	0.0%	28.6%	12.7%	37.3%	7.9%	1.6%	5.6%

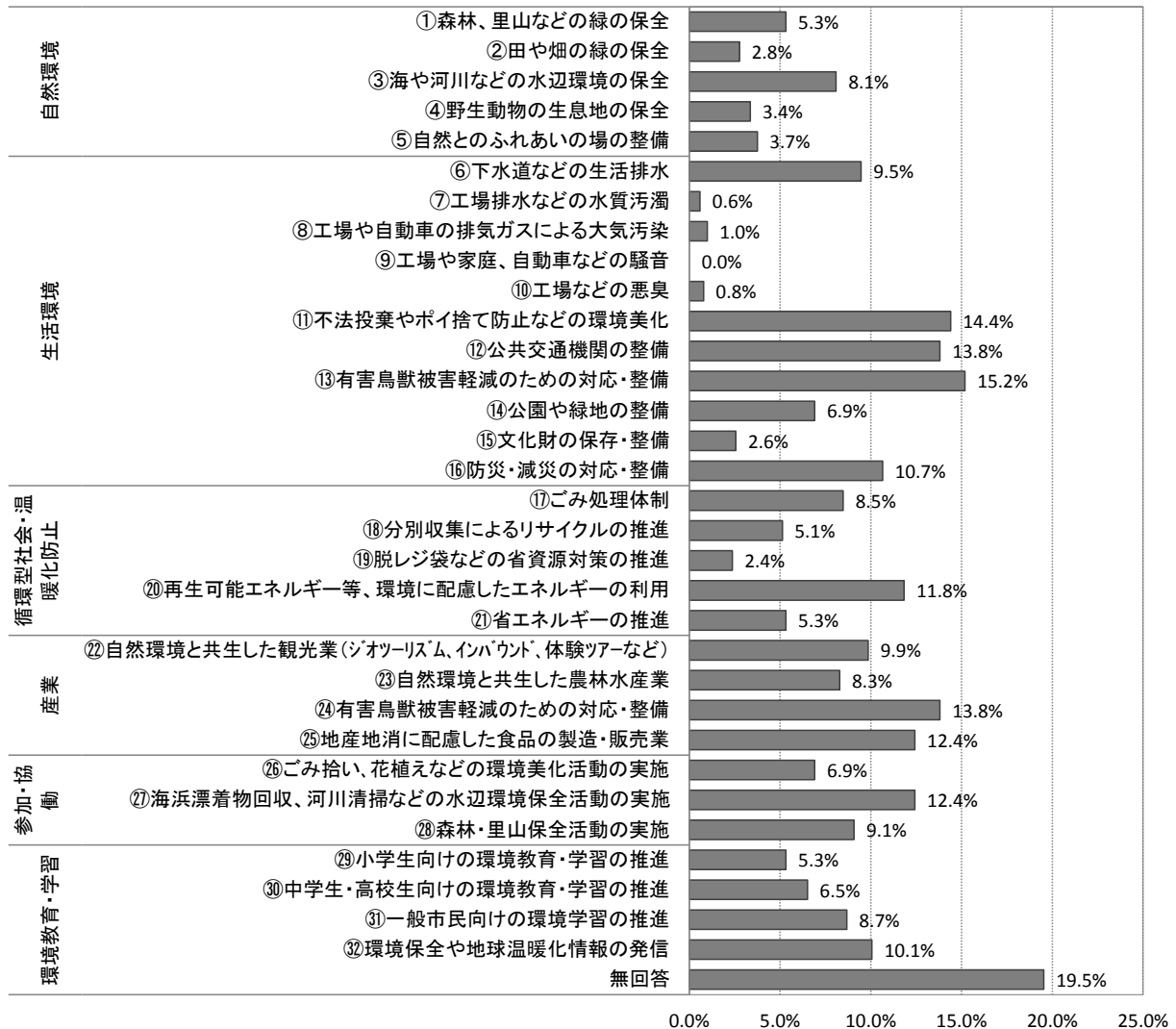
		循環型社会・地球温暖化						産業				参加・協働			環境教育・学習			
	回答者数	⑰ごみ処理体制 の推進	⑱分別収集によるリサイクルの推進	⑲脱レジ袋などの省資源対策の推進	⑳再生可能エネルギー等、環境に配慮したエネルギーの利用	㉑省エネルギーの推進	㉒自然環境と共生した観光業（エコツーリズム、体験など）	㉓自然環境と共生した農林水産業	㉔有害鳥獣被害軽減のための対応・整備	㉕地産地消に配慮した食品の製造・販売業	㉖ごみ拾い・花植えなどの環境美化活動の実施	㉗海浜漂着物回収、河川清掃などの水辺環境保全活動の実施	㉘森林・里山保全活動の実施	㉙小学生向けの環境教育・学習の推進	㉚中学生・高校生向けの環境教育・学習の推進	㉛一般市民向けの環境学習の推進	㉜環境保全や地球温暖化情報の発信	無回答
性別																		
男性	246	8.5%	2.0%	0.8%	6.1%	4.9%	4.1%	5.3%	21.5%	6.5%	3.7%	10.6%	8.1%	4.5%	4.1%	3.3%	3.7%	13.4%
女性	257	8.6%	3.5%	3.5%	6.6%	3.1%	5.1%	2.7%	19.1%	5.4%	5.1%	10.9%	4.3%	4.3%	5.8%	7.0%	4.7%	18.3%
年齢別																		
20歳未満	5	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%
20～29歳	22	9.1%	9.1%	4.5%	9.1%	18.2%	9.1%	0.0%	4.5%	9.1%	4.5%	4.5%	0.0%	9.1%	9.1%	9.1%	0.0%	13.6%
30～39歳	44	13.6%	6.8%	0.0%	0.0%	2.3%	4.5%	4.5%	13.6%	6.8%	2.3%	13.6%	2.3%	6.8%	2.3%	4.5%	6.8%	13.6%
40～49歳	71	9.9%	4.2%	1.4%	4.2%	2.8%	5.6%	1.4%	8.5%	7.0%	5.6%	7.0%	5.6%	7.0%	7.0%	5.6%	2.8%	14.1%
50～59歳	91	16.5%	4.4%	1.1%	9.9%	7.7%	4.4%	5.5%	17.6%	5.5%	6.6%	6.6%	3.3%	3.3%	5.5%	5.5%	3.3%	12.1%
60～69歳	146	6.2%	0.7%	2.1%	8.9%	2.7%	4.8%	5.5%	26.7%	8.2%	4.1%	14.4%	8.2%	2.7%	3.4%	2.1%	4.1%	15.1%
70歳以上	126	3.2%	0.8%	4.0%	4.0%	1.6%	3.2%	3.2%	27.0%	2.4%	3.2%	11.9%	8.7%	3.2%	5.6%	7.9%	5.6%	21.4%

※各属性で上位3位までを網掛け

問4. 京丹後市全体の環境政策を進めていくうえで重要だと思う項目

- ・ 「有害鳥獣被害軽減のための対応・整備（生活環境分野）」（15.2%）が最も多く、次いで「不法投棄やポイ捨て防止などの環境美化」（14.4%）、「公共交通機関の整備」（13.8%）、「有害鳥獣被害軽減のための対応・整備（産業分野）」（13.8%）、「地産地消に配慮した食品の製造・販売業」（12.4%）、「海浜漂着物回収、河川清掃など水辺環境保全活動の実施」（12.4%）と続く。
- ・ 年齢別でみると、40～49歳では「公共交通機関の整備」が26.8%と多い。

京丹後市全体の環境施策を進めていくうえで重要だと思う項目（複数、N=507）



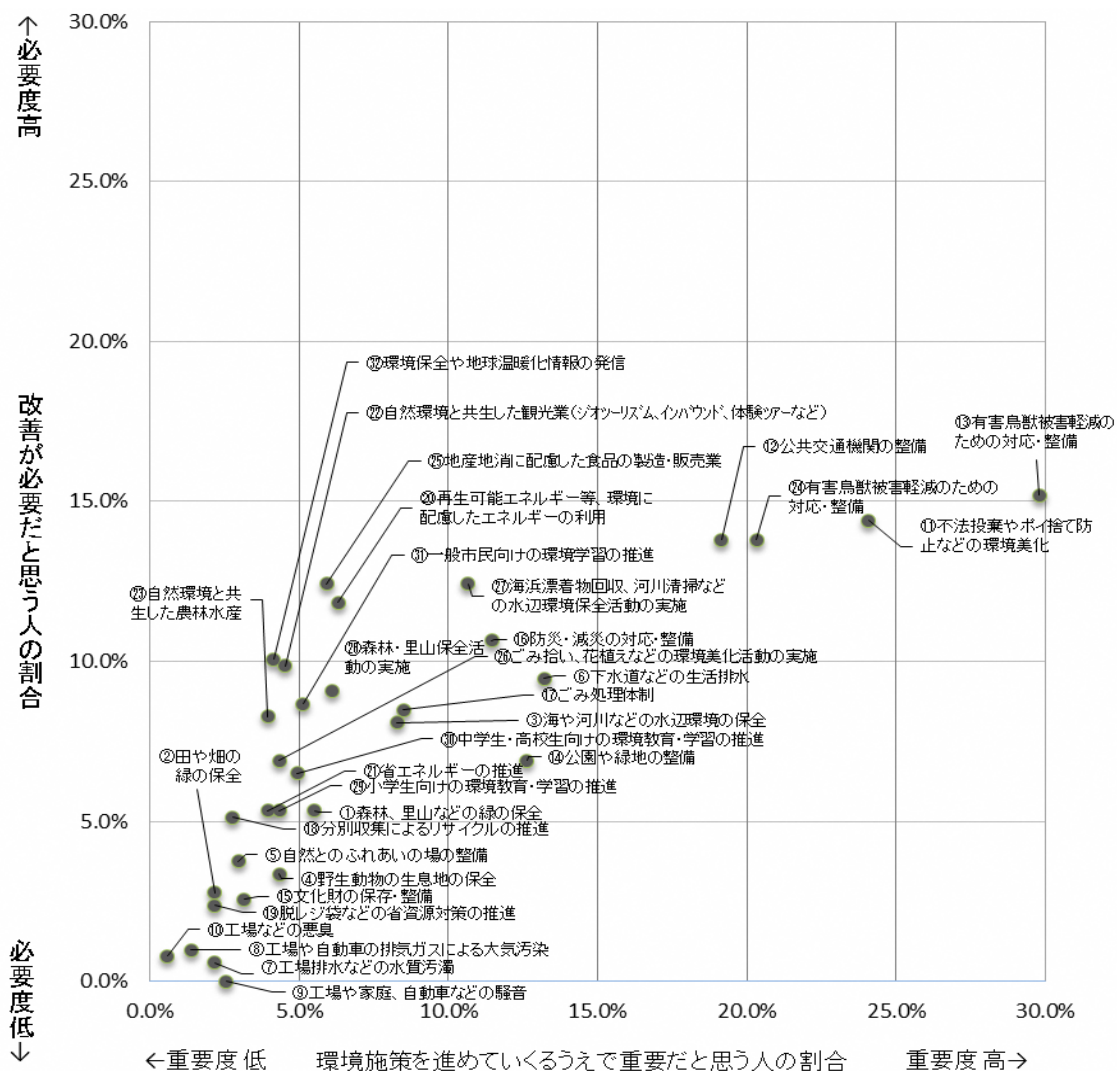
〔性別・年齢別〕

		自然環境						生活環境									
	回答者数	①森林、里山などの緑の保全	②田や畑の緑の保全	③海や河川などの水辺環境の保全	④野生動物の生息地の保全	⑤自然とのふれあいの場の整備	⑥下水道などの生活排水	⑦工場排水などの水質汚濁	⑧工場や自動車の排気ガスによる大気汚染	⑨工場や家庭、自動車などの騒音	⑩工場などの悪臭	⑪不法投棄やポイ捨て防止などの環境美化	⑫公共交通機関の整備	⑬有害鳥獣被害軽減のための対応・整備	⑭公園や緑地の整備	⑮文化財の保存・整備	⑯防災・減災の対応・整備
性別																	
男性	246	6.1%	2.8%	7.7%	3.3%	4.1%	10.2%	1.2%	0.8%	0.0%	1.6%	15.4%	14.2%	17.1%	8.5%	2.0%	11.0%
女性	257	4.7%	2.7%	8.6%	3.5%	3.5%	8.9%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	13.2%	13.6%	13.6%	5.4%	3.1%	10.5%
年齢別																	
20歳未満	5	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
20～29歳	22	4.5%	9.1%	4.5%	4.5%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	18.2%	18.2%	18.2%	13.6%	4.5%	22.7%
30～39歳	44	4.5%	0.0%	6.8%	0.0%	4.5%	9.1%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	11.4%	13.6%	15.9%	13.6%	4.5%	11.4%
40～49歳	71	8.5%	2.8%	12.7%	4.2%	4.2%	5.6%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	12.7%	26.8%	11.3%	4.2%	1.4%	9.9%
50～59歳	91	6.6%	5.5%	12.1%	2.2%	0.0%	12.1%	0.0%	2.2%	0.0%	1.1%	15.4%	19.8%	12.1%	2.2%	3.3%	12.1%
60～69歳	146	6.8%	2.7%	6.8%	4.1%	5.5%	11.0%	0.7%	0.7%	0.0%	2.1%	12.3%	7.5%	19.9%	9.6%	2.7%	12.3%
70歳以上	126	1.6%	0.8%	5.6%	4.0%	4.0%	10.3%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	17.5%	8.7%	14.3%	5.6%	1.6%	5.6%

		循環型社会・地球温暖化					産業				参加・協働			環境教育・学習				
	回答者数	⑰ごみ処理体制	⑱分別収集によるリサイクルの推進	⑲脱レジ袋などの省資源対策の推進	⑳再生可能エネルギー等、環境に配慮したエネルギーの利用	㉑省エネルギーの推進	㉒自然環境と共生した観光業（エコツーリズム、体験ツアーなど）	㉓自然環境と共生した農林水産業	㉔有害鳥獣被害軽減のための対応・整備	㉕地産地消に配慮した食品の製造・販売業	㉖ごみ拾い・花植えなどの環境美化活動の実施	㉗海浜漂着物回収、河川清掃などの水辺環境保全活動の実施	㉘森林・里山保全活動の実施	㉙小学生向けの環境教育・学習の推進	㉚中学生・高校生向けの環境教育・学習の推進	㉛一般市民向けの環境学習の推進	㉜環境保全や地球温暖化情報の発信	無回答
性別																		
男性	246	8.1%	4.5%	2.0%	11.8%	6.1%	11.0%	8.5%	13.8%	13.4%	6.5%	14.2%	10.6%	5.7%	5.7%	8.5%	7.7%	16.3%
女性	257	8.9%	5.8%	2.7%	12.1%	4.7%	8.9%	8.2%	13.6%	11.7%	7.4%	10.5%	7.8%	5.1%	7.4%	8.9%	12.5%	21.8%
年齢別																		
20歳未満	5	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	80.0%
20～29歳	22	13.6%	0.0%	4.5%	4.5%	4.5%	4.5%	4.5%	0.0%	18.2%	13.6%	13.6%	4.5%	4.5%	18.2%	9.1%	13.6%	13.6%
30～39歳	44	13.6%	4.5%	2.3%	4.5%	2.3%	15.9%	9.1%	9.1%	18.2%	6.8%	13.6%	6.8%	6.8%	11.4%	13.6%	9.1%	18.2%
40～49歳	71	14.1%	7.0%	7.0%	12.7%	9.9%	9.9%	8.5%	9.9%	14.1%	5.6%	5.6%	4.2%	8.5%	7.0%	8.5%	5.6%	15.5%
50～59歳	91	9.9%	8.8%	2.2%	11.0%	2.2%	14.3%	11.0%	13.2%	11.0%	7.7%	15.4%	9.9%	6.6%	5.5%	5.5%	11.0%	14.3%
60～69歳	146	2.7%	2.7%	2.1%	14.4%	6.2%	9.6%	8.9%	15.8%	10.3%	4.8%	15.8%	9.6%	5.5%	7.5%	6.2%	10.3%	18.5%
70歳以上	126	8.7%	5.6%	0.0%	13.5%	5.6%	5.6%	6.3%	18.3%	12.7%	8.7%	9.5%	12.7%	2.4%	2.4%	12.7%	11.9%	25.4%

※各属性で上位3位までを網掛け

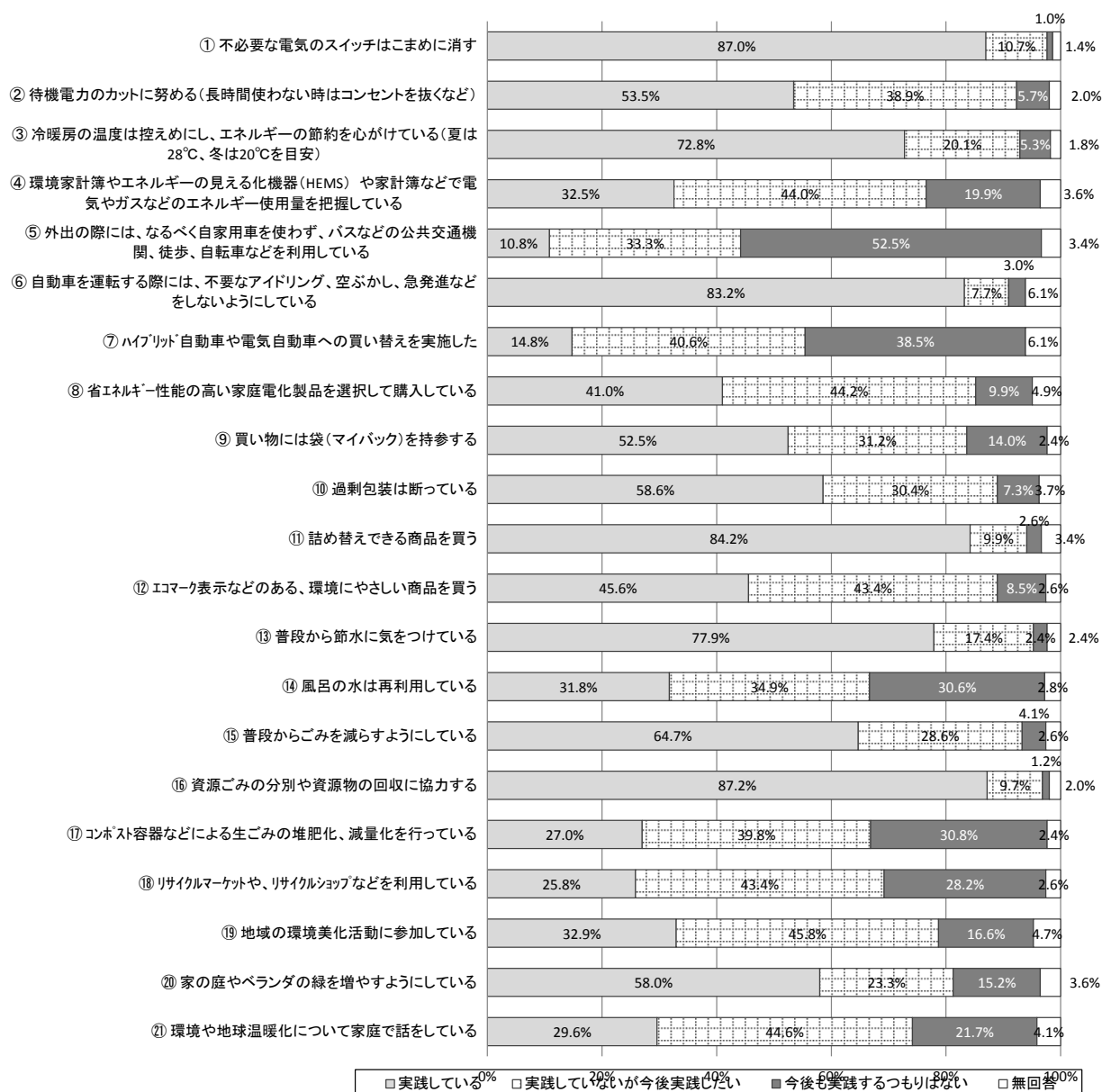
- ・ 周辺環境の改善が必要だと思う項目(問 3)と、環境施策を進めていく上で重要だと思う項目(問 4)との関係をみると、改善が必要だと思う人の割合が多い項目ほど、環境施策を進めていく上で重要だと思う人の割合が多い傾向がある。
- ・ 両要素ともに高い項目としては、「有害鳥獣被害軽減のための対応・整備(生活環境分野・産業分野)」、「不法投棄やポイ捨て防止などの環境美化」、「公共交通機関の整備」がある。



問5. 普段の生活で環境に配慮した取り組みの実践

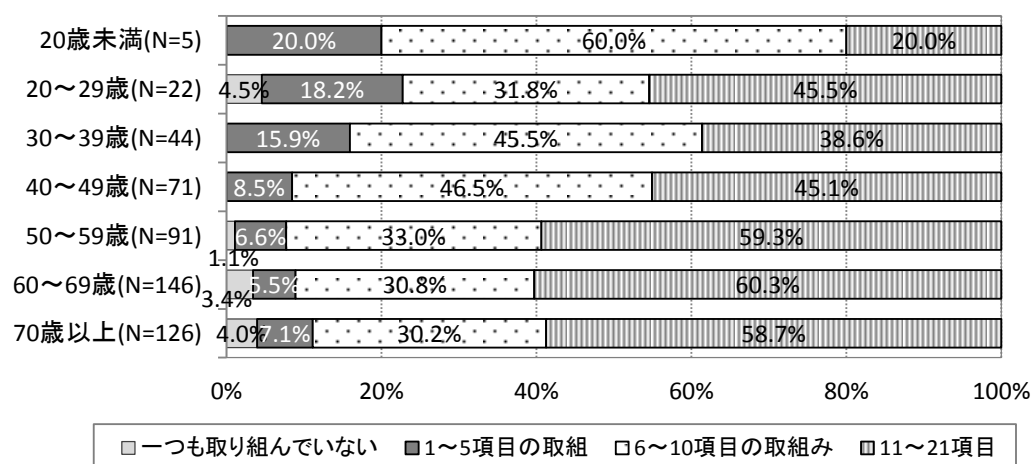
- ・ 「実践している」項目をみると、「資源ごみの分別や資源物の回収に協力する」(87.2%)が最も多く、次いで「不必要な電気のスイッチはこまめに消す」(87.0%)、「詰め替えできる商品を買う」(84.2%)、「自動車を運転する際には、不要なアイドリング、空ぶかし、急発進などをしないようにしている」(83.2%)、「普段から節水に気をつけている」(77.9%)、「冷暖房の温度は控えめにし、エネルギーの節約を心がけている(夏は28℃、冬は20℃を目安)」(72.8%)と続く。
- ・ 一方、「今後も実践するつもりはない」は、「外出の際には、なるべく自家用車を使わず、バスなどの公共交通機関、徒歩、自転車などを利用している」(52.5%)が最も多く半数を超えており、次いで「ハイブリッド自動車や電気自動車への買い替えを実施した」(38.5%)、「コンポスト容器などによる生ごみの堆肥化、減量化を行っている」(30.8%)、「風呂の水は再利用している」(30.6%)と続く。

普段の生活で環境に配慮した取り組みの実践(単数、N=507)



- ・ 環境への取り組み状況をみるために、各項目（全 21 項目）について「実践している」と回答した項目数を集計した。実践項目数が多い層は、環境への意識が高い層と捉えることができると思われる。
- ・ 年齢別でみると、「11～21 項目」は 50 歳以上では半数以上と多く、30～39 歳では 38.6%と他の年齢層と比べて少ない。

普段の生活で環境に配慮した取り組みの実践項目数(単数、N=507)

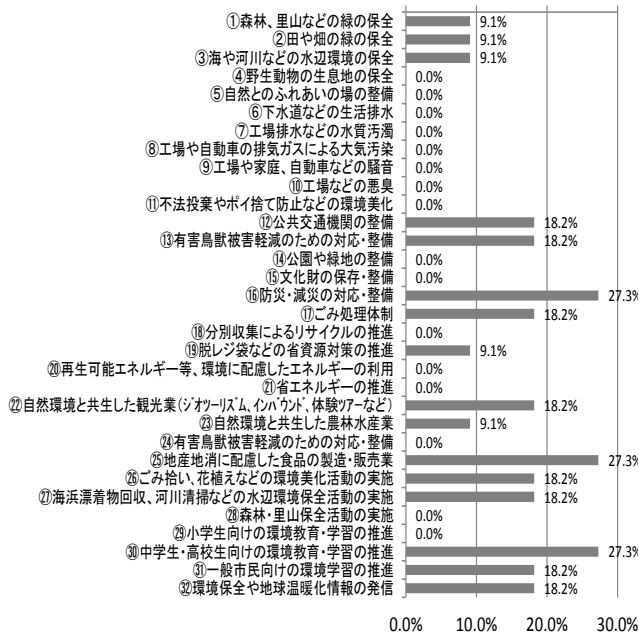


〔環境への意識が高い層が環境政策を進めていくうえで重要だと思う項目〕

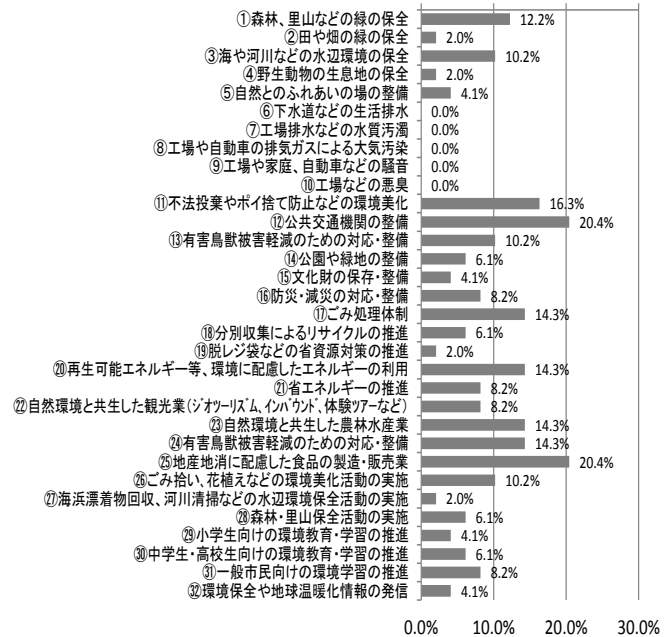
- ・ また、「11～21 項目」で実践している方を環境への意識が高い層と捉え、それらの層が環境対策を進めていくうえで重要だと思っている項目（問 4）についてみると、20 歳代以下では「防災・減災の対応・整備防災」、「地産地消に配慮した食品の製造・販売業」、「中学生・高校生向けの環境教育・学習の推進」がいずれも 27.3%と最も多い。30～40 歳代では「公共交通機関の整備」、「地産地消に配慮した食品の製造・販売業」がいずれも 20.4%と最も多い。50～60 歳代では「有害鳥獣被害軽減のための対応・整備（生活環境分野、産業分野）」(19.0%、17.6%)が多い。70 歳以上では「有害鳥獣被害軽減のための対応・整備」(20.3%)が最も多く、次いで「不法投棄やポイ捨て防止などの環境美化」(18.9%)と続く。

〔環境への意識が高い層（取り組みの実践項目数 11～21 項目）が環境政策を進めていくうえで重要だと思う項目〕

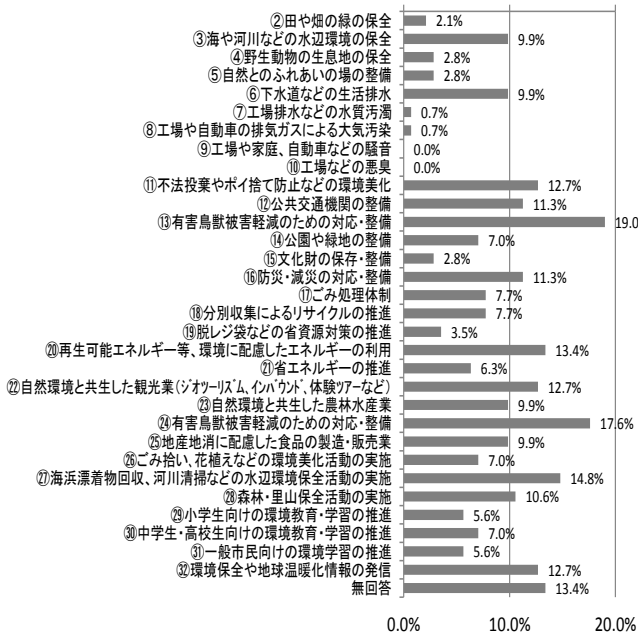
20歳代以下



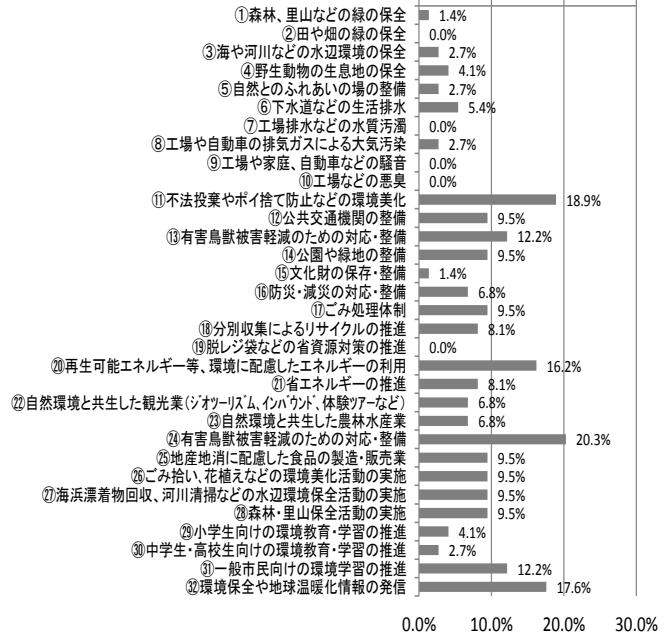
30～40歳代



50～60歳代

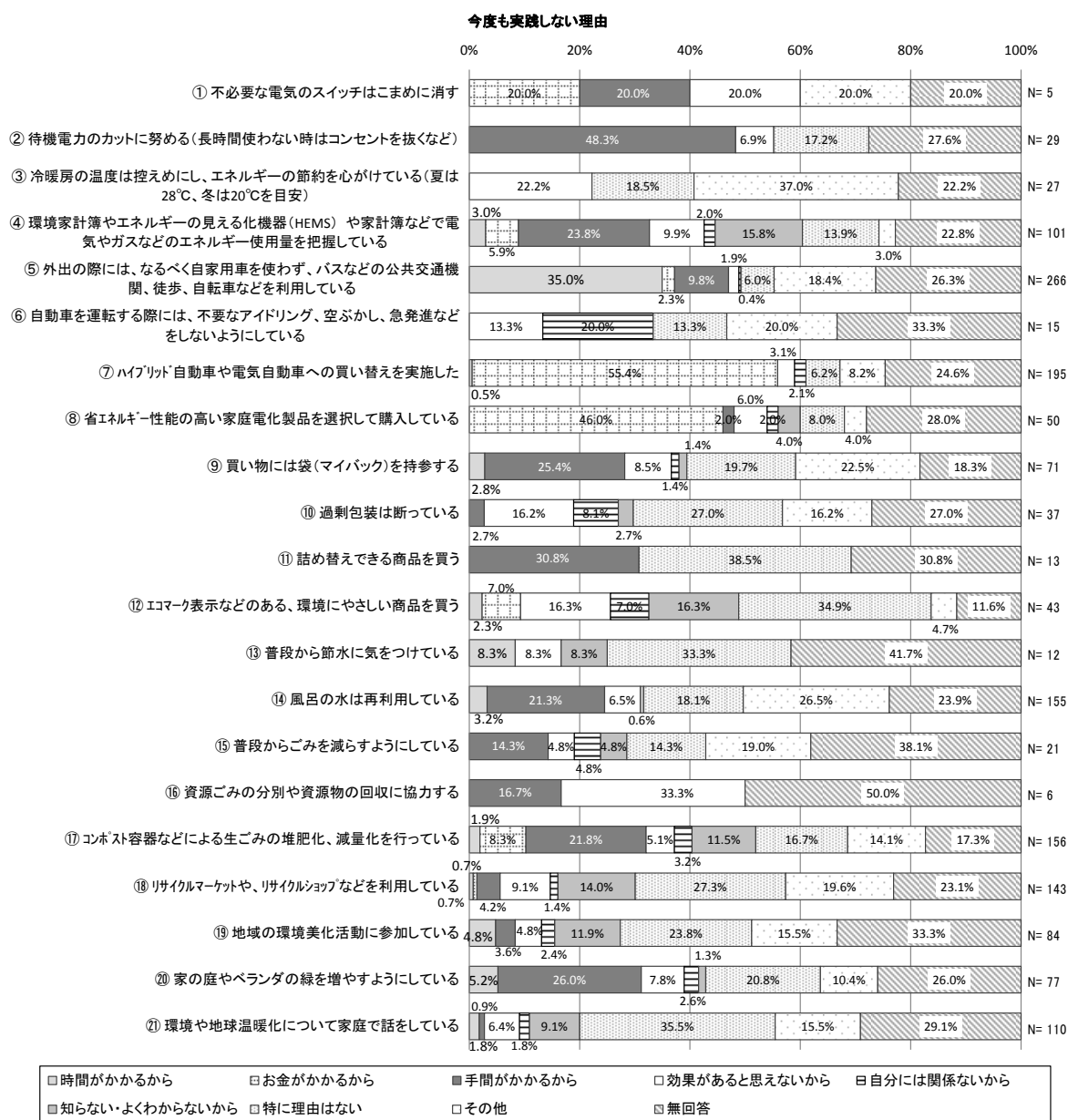


70歳以上



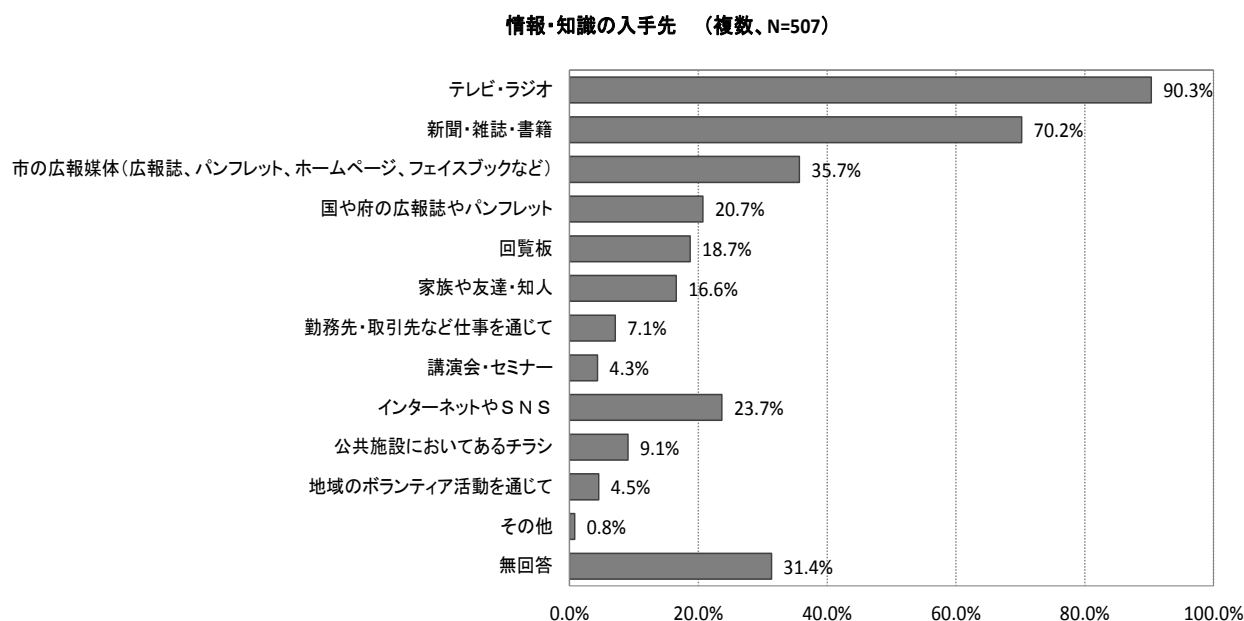
問 5-1. 今後も実践しない理由（問 5「3. 今後も実践するつもりはない」の選択者のみ回答）

- 問 5 で「実践するつもりはない」が多かった項目についてみると、『外出の際には、なるべく自家用車を使わず、バスなどの公共交通機関、徒歩、自転車などを利用している』では「時間がかかるから」（35.0%）が最も多く、『ハイブリッド自動車や電気自動車への買い替えを実施した』では「お金がかかるから」（55.4%）が最も多く、『コンポスト容器などによる生ごみの堆肥化、減量化を行っている』と『風呂の水は再利用している』では「手間がかかるから」（21.8%、21.3%）が最も多い。



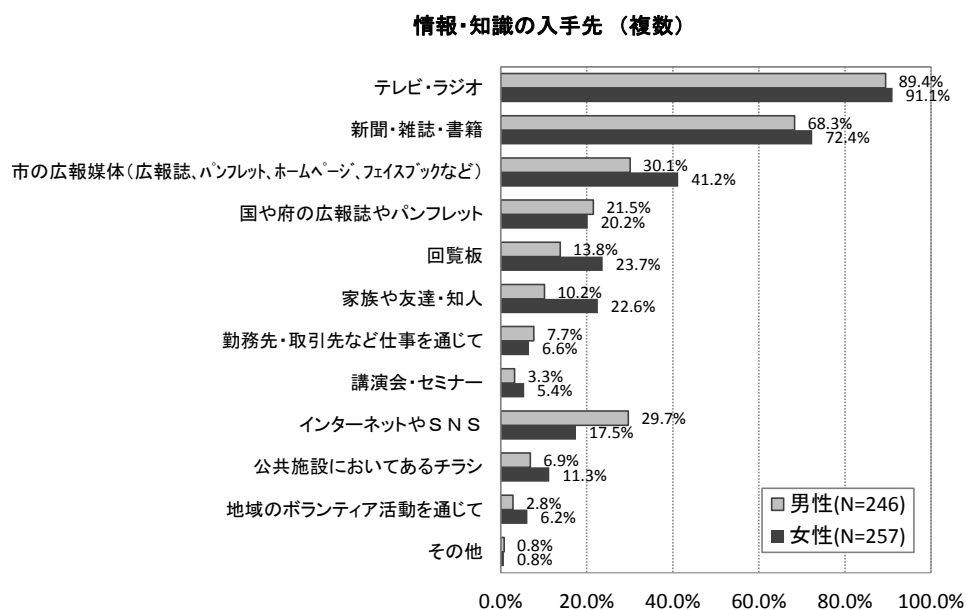
問6. 環境や地球温暖化などについての情報、知識の入手先

- ・ 「テレビ・ラジオ」(90.3%) が最も多く、次いで「新聞・雑誌・書籍」(70.2%)、「市の広報媒体(広報誌、パンフレット、ホームページ、フェイスブックなど)」(35.7%)、「インターネットやSNS」(23.7%) と続く。
- ・ 性別でみると、「市の広報媒体(広報誌、パンフレット、ホームページ、フェイスブックなど)」や「回覧板」、「家族や友達・知人」は女性の方が多く、「インターネットやSNS」は男性の方が多い。
- ・ 年齢別でみると、テレビ・ラジオ、新聞・雑誌・書籍はいずれの年代においても多い。「市の広報媒体(広報誌、パンフレット、ホームページ、フェイスブックなど)」は年代が高いほど、「インターネットやSNS」は年代が低いほど多い傾向にあるが、30～39歳ではどの年代よりも低くなっている。
- ・ 前回調査と比較すると、「インターネットやSNS」で13.9ポイント、「テレビ・ラジオ」で5.0ポイント増加しており、それ以外では減少している。特に、市の広報媒体は18.9ポイント減少している。

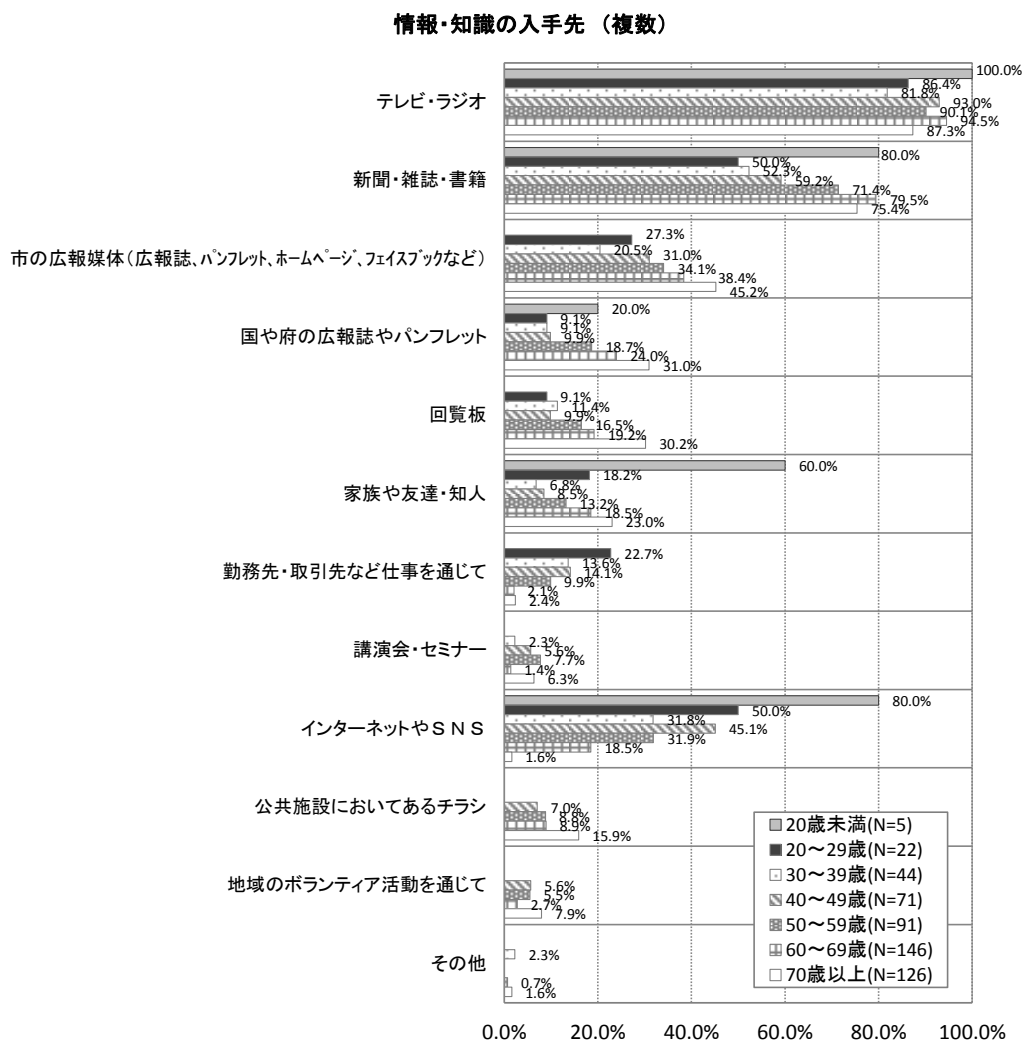


その他の意見
EM 生活大阪オルター
スーパーコンピューターによる情報、知識。
妻

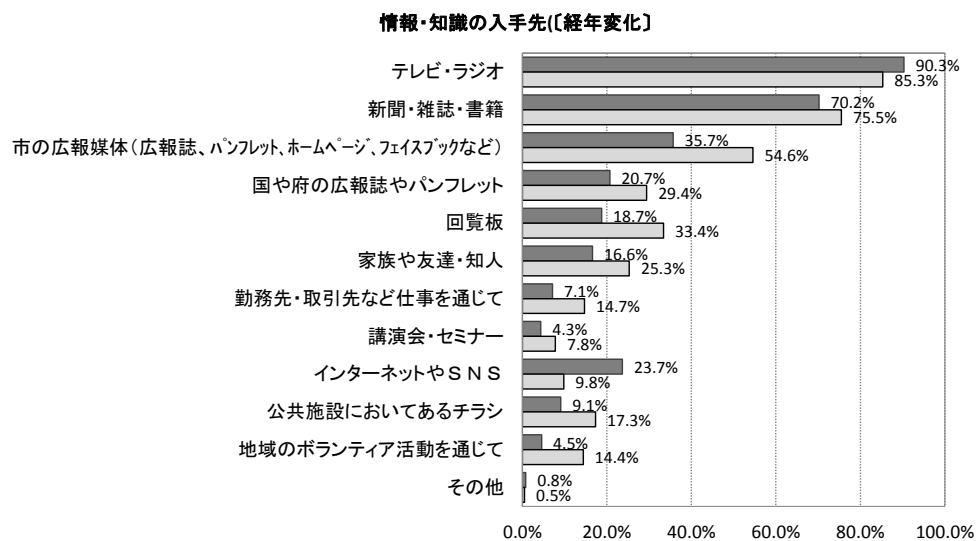
〔性別〕



〔年齢別〕



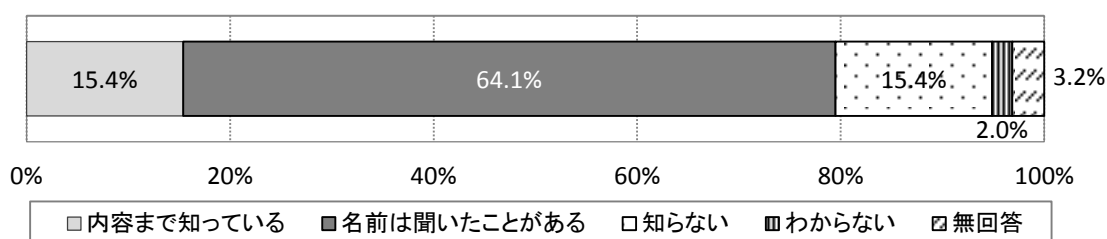
〔前回調査との比較〕



問7. パリ協定の認知度

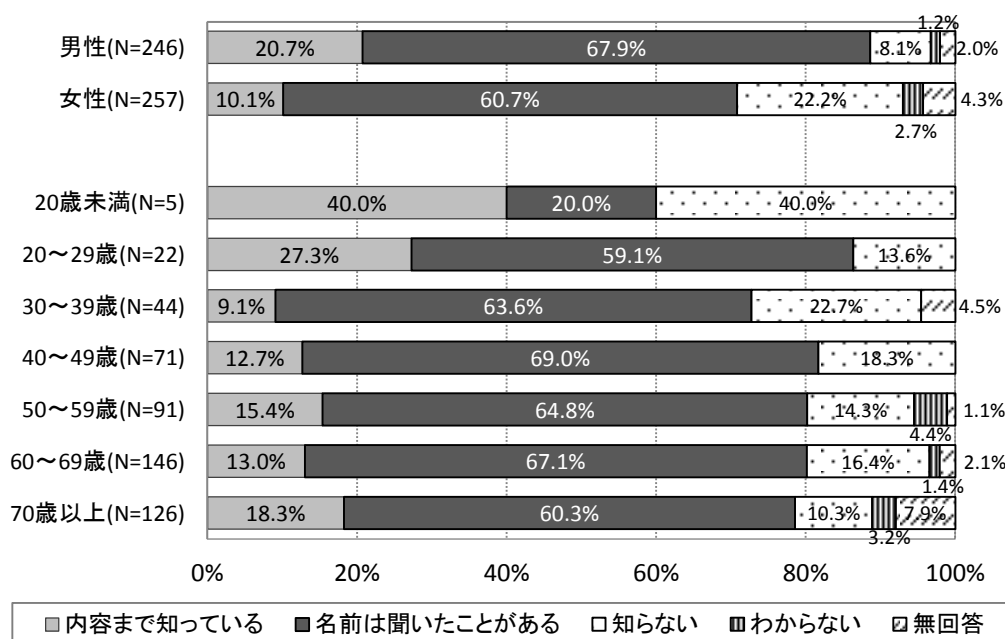
- ・ 「名前は聞いたことがある」(64.1%)が6割以上を占めており、「内容まで知っている」(15.4%)、「知らない」(15.4%)と続く。
- ・ 性別でみると、「内容まで知っている」が男性で20.7%、女性で10.1%と、男性の方が認知度が高い。
- ・ 年齢別でみると、20～29歳では「内容まで知っている」が27.3%と他の年代よりも多い。一方、30～39歳では「知らない」が22.7%と他の年代よりも多い。

「パリ協定」の認知度（単数）、N=507



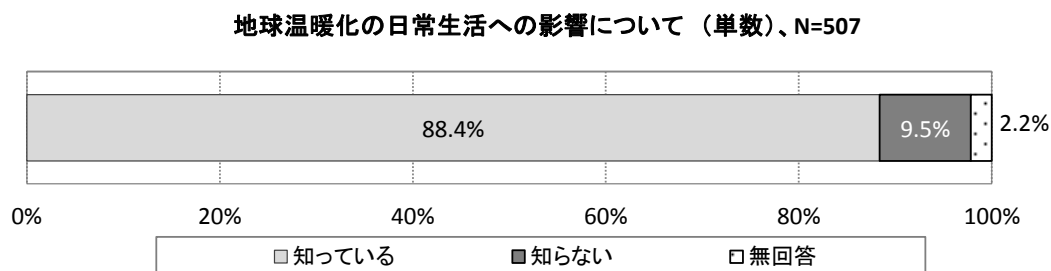
〔性別・年齢別〕

「パリ協定」の認知度（単数）

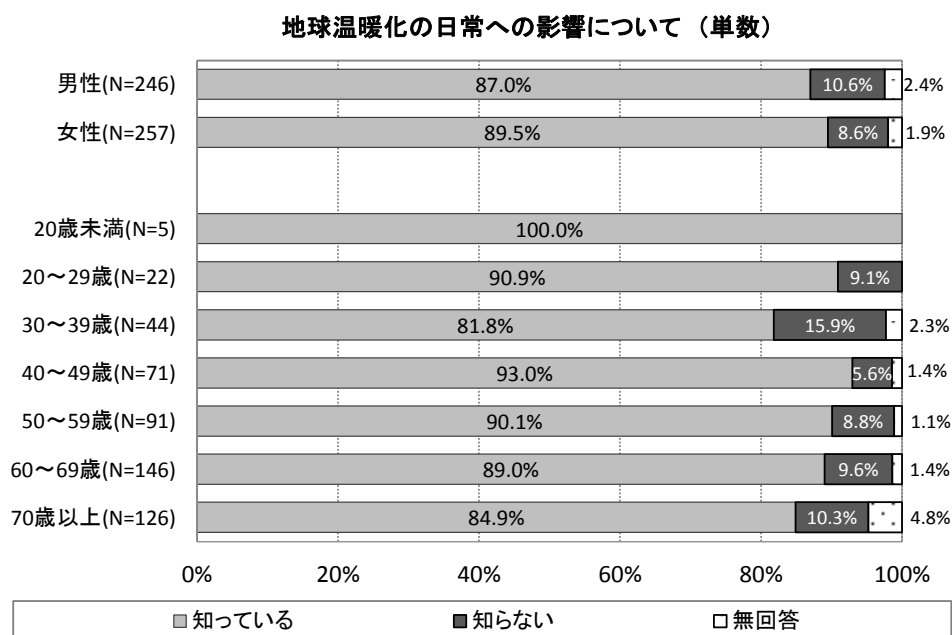


問8. 地球温暖化の日常生活への影響について

- ・ 「知っている」(88.4%) が8割以上となっており、「知らない」が9.5%となっている。
- ・ 性別でみると、大きな違いはみられない。
- ・ 年代別でみると、30～39歳で「知っている」が81.8%と他の年代と比べて少ない。また、40歳以上でみると、年代が上がるほど認知度が低くなっている。



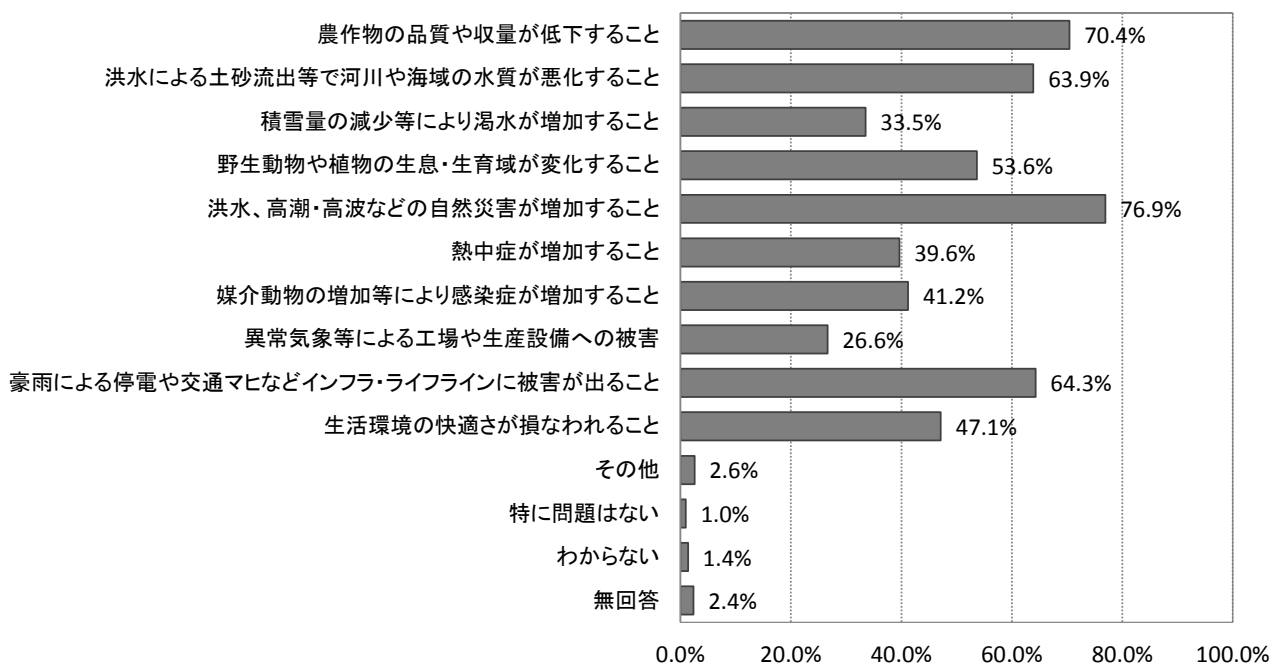
〔性別・年齢別〕



問9. 地球温暖化による影響で問題だと感じる項目

- ・ 「洪水、高潮・高波などの自然災害が増加すること」(76.9%) が最も多く、次いで「農作物の品質や収量が低下すること」(70.4%)、「豪雨による停電や交通マヒなどインフラ・ライフラインに被害が出ること」(64.3%)、「洪水による土砂流出等で河川や海域の水質が悪化すること」(63.9%)、「野生動物や植物の生息・生育域が変化すること」(53.6%) と続く。
- ・ 年齢別でみると、上記以外では、20 歳代で「生活環境の快適さが損なわれること」(63.6%)、「熱中症が増加すること」(54.5%)、「媒介動物の増加等により感染症が増加すること」(54.5%)、70 歳以上で「生活環境の快適さが損なわれること」(52.4%) が半数以上となっている。

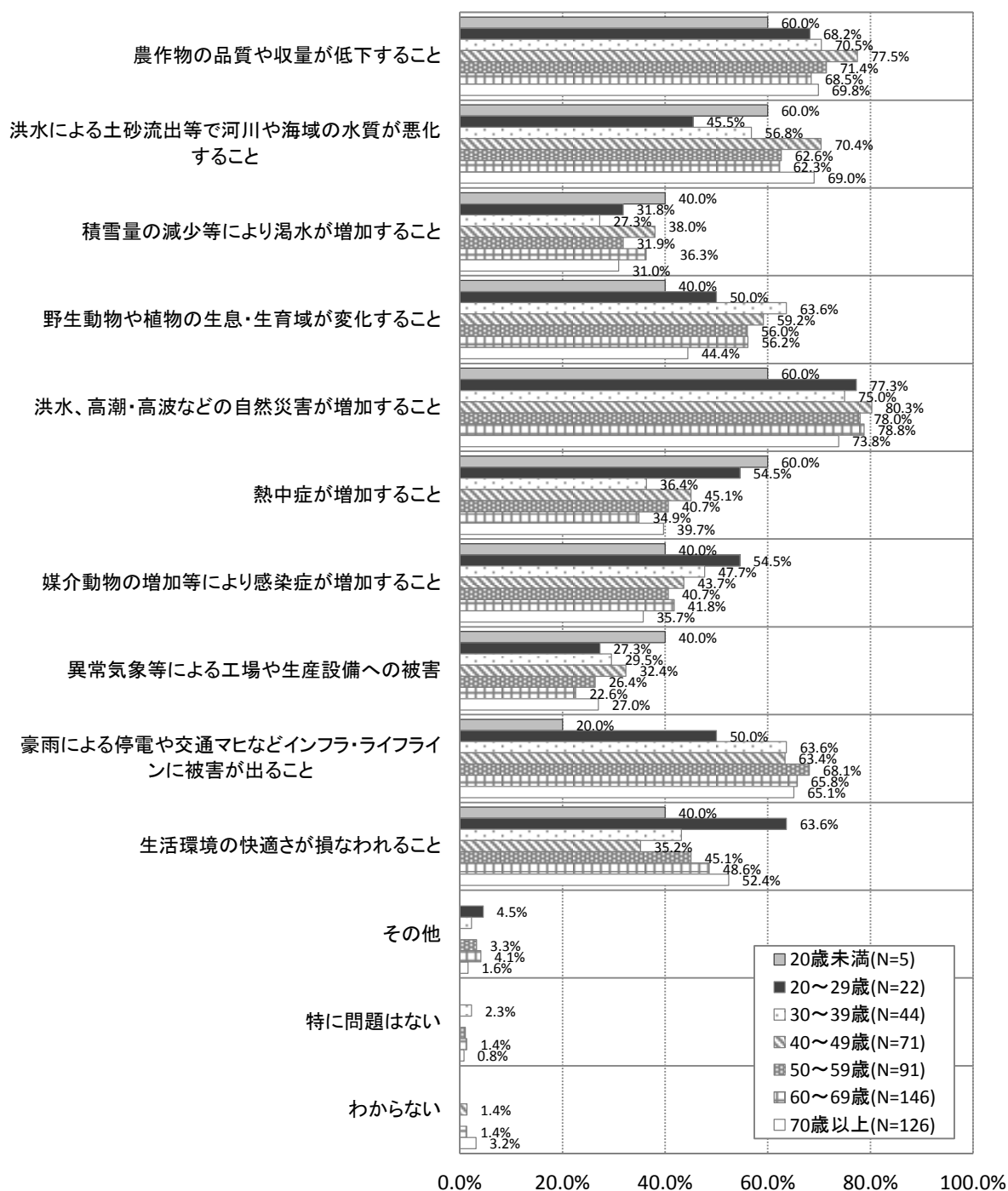
地球温暖化による影響で問題だと感じる項目(複数、N=507)



その他の意見
シカ・イノシシの増加
氷河の減少、海水面の上昇
生まれてくる子への影響
地域の未来がなくなっていく
地磁気、電磁の影響
温暖化で丹後は雪が少なくなり昔より助かっていると思う
地球上のあらゆる生命を絶滅に追いやっていくこと
極地の変化、島の沈没(ツバル)など
雨や雪が一時に大量に降るようになってきている
近隣国からの有害物質
人類の滅亡

〔年齢別〕

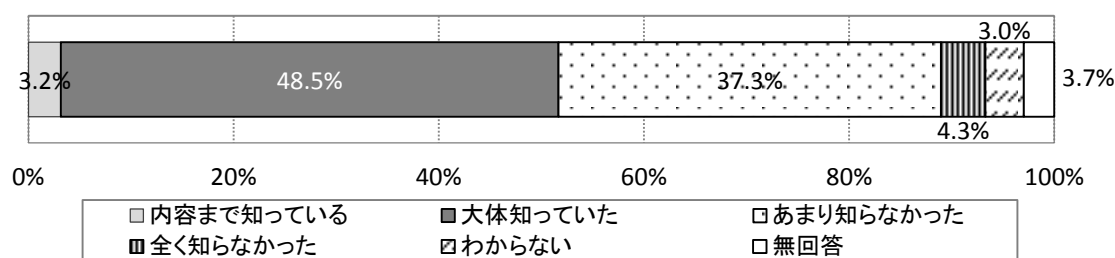
地球温暖化による影響で問題だと感じる項目（複数）



問10. 地球温暖化がもたらす気候変動への対処「適応」についての認知度

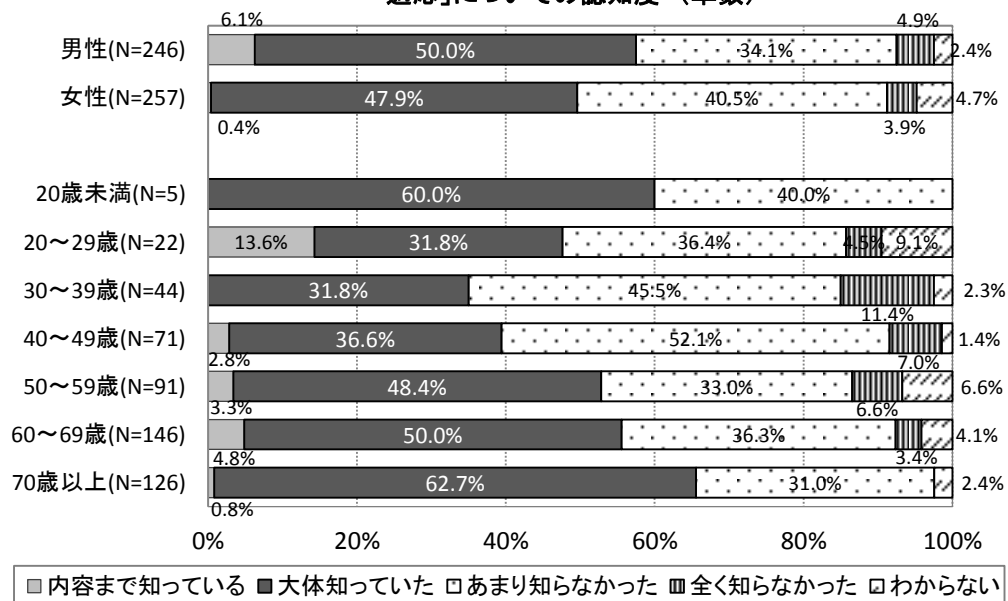
- ・ 「大体知っていた」(48.5%) が最も多く、「あまり知らなかった」(37.3%)、「全く知らなかった」(4.3%) となっている。「内容まで知っている」は3.2%であった。
- ・ 性別でみると、「内容まで知っている」は男性で6.1%と女性(0.4%) より多い。
- ・ 年代別でみると、20 歳～29 歳で「内容まで知っている」が 13.6%と他の年代と比べて多い。また、「内容まで知っている」と「大体知っていた」との合計をみると、30～39 歳で 31.8%と最も少なく、70 歳以上で 63.5%と最も多い。

「適応」についての認知度 (単数、N=507)



〔性別・年齢別〕

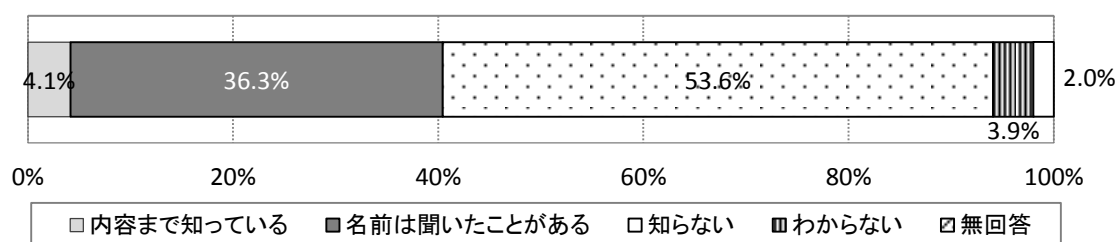
「適応」についての認知度 (単数)



問11. 国民運動「COOL CHOICE（クール チョイス）」の認知度

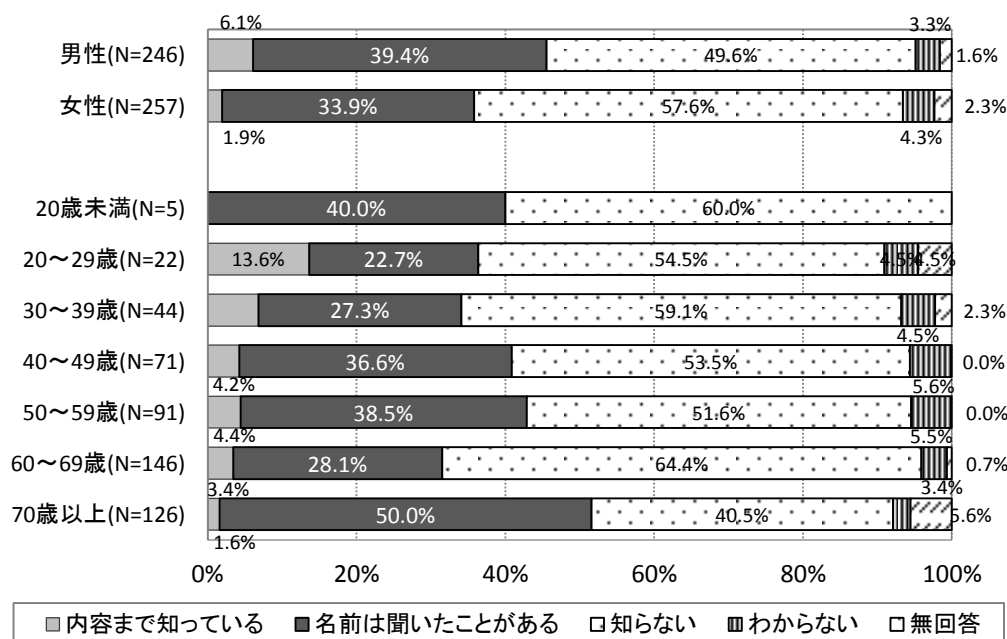
- ・ 「知らない」が53.6%と半数を超えており、「名前は聞いたことがある」が36.3%となっている。「内容まで知っている」は4.1%であった。
- ・ 性別でみると、「内容まで知っている」は男性（6.1%）が女性（1.9%）より多い。
- ・ 年代別でみると、20～39歳で「内容まで知っている」（13.6%）が他の年代と比べて多い。また、「内容まで知っている」と「名前は聞いたことがある」との合計をみると、60～69歳で31.5%と最も少なく、70歳以上で51.6%と最も多い。

国民運動「COOLCHOICE（クールチョイス）」の認知度（単数、N=507）



〔性別・年齢別〕

国民運動「COOLCHOICE（クールチョイス）」の認知度（単数）

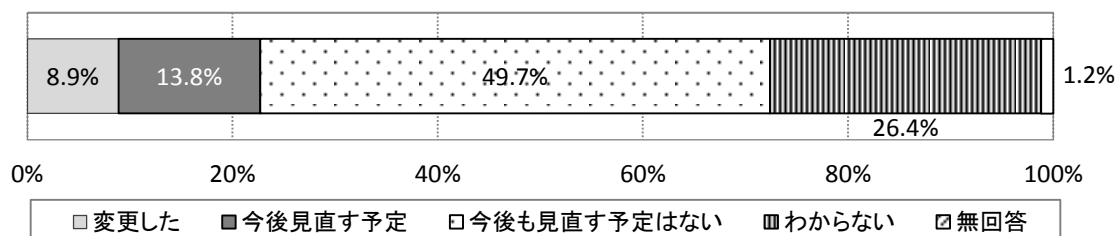


問12. 電力・ガスの購入先の見直し予定

- ・ 電気の購入先変更は、「変更した」と「今後見直す予定」をあわせて 22.7%であった。
- ・ ガスの購入先変更は、「変更した」と「今後見直す予定」をあわせて 13.2%であった。

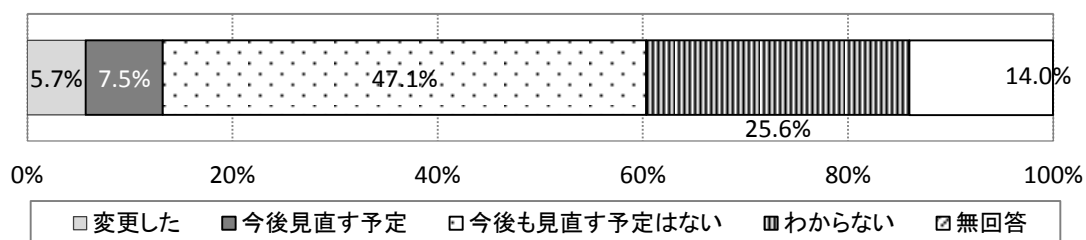
<電力>

電力の購入先の見直し予定（単数、N=507）



<ガス>

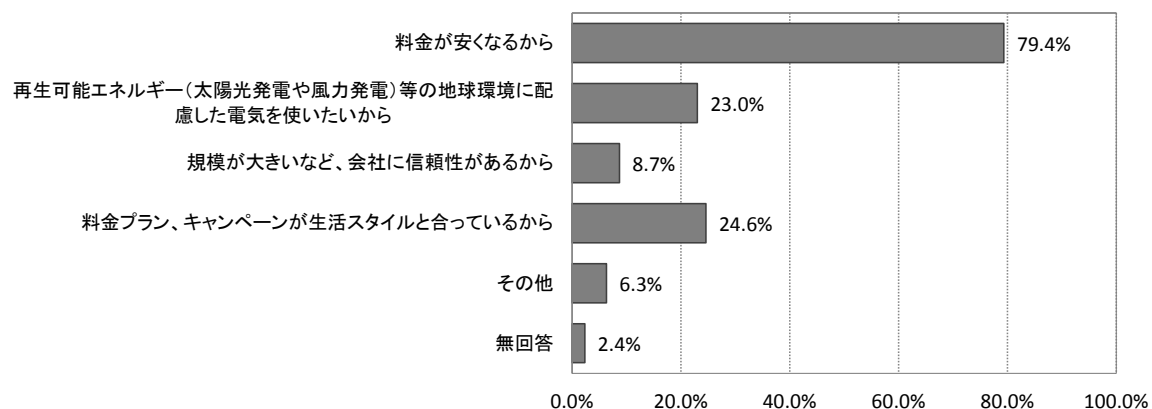
ガスの購入先の見直し予定（単数、N=507）



問13. 電力・ガスの変更または見直し予定の理由

- ・ 「料金が安くなるから」（79.4%）が最も多く、8割程度となっている。

変更または見直し予定の理由（複数、N=507）



問14. 京丹後市で温室効果ガス削減や気候変動への対応を推進するために効果的な対策

- ・ 同市の自然環境を生かした独自性のある取り組み。
- ・ 山林の整備、水の利用の仕方。
- ・ 山林の手入。必要最低限、物を大切に、お金を大切に。ゴミを出さなければガスも出ない。産業系の会社の設備等の改善。
- ・ 山林の有効利用、地産地消
- ・ 里山の整備、植林。
- ・ 森林保全実施。
- ・ 森林の整備・林業従事者の育成を支援。ECO 生活の推進。
- ・ 自然を活用し、むやみに自然を破壊しない。無理かもしれないが里山が重要課題だと思う。
- ・ 緑を増やす。
- ・ 山が荒れて田んぼも荒れていっている現状はどうかと思う。なにもかもが中途半端。
- ・ 森林保全を行う事で計画的な伐採をして、木質ボイラー等、木材を使ったエネルギーの確保。モデル地区を作って区全体で取り組む。
- ・ 森林、田畑の保全。人口減少の歯止め。
- ・ 省エネの意識の向上、製品の購入や切り替え、リサイクルの徹底や環境に配慮した商品の購入、再生エネルギーの導入。
- ・ 企業、家庭の LED 化の推進。ゴミの減量化。参考（株）日進製作所さんは CO2 削減に強力な取り組みされているので参考にされてはどうか。
- ・ 公共設備及び、家庭の照明を LED に変更する。
- ・ 市内を大きく分けして、昨年対比のエネルギー消費量を削減努力、目標にして削減表を作る。
- ・ LED などの省エネ機器、再生可能エネルギーへの助成金を一般家庭、企業、団体に紹介して欲しい。
- ・ エアコン。働く人の服装を体裁よりも機能を重視する。
- ・ 停電デーを作る。
- ・ 火力や原子力に頼らない電力を目標にしたいが、太陽光も風力も地理的にも金銭的にも難しく、灯油や電力をひかえて暑さ寒さに耐えることも難しい年齢です。ただ、夏はクーラーの使用や暖房湿度は少なめ、低めを心掛けています。
- ・ 人口 5 万人程度の本市で、温室効果ガス削減事業を行っても、もともと大都市に比べて CO2 排出量は少ないと考えられ、事業の効果は薄いと思います。
- ・ 過剰包装をなくすよう市町村から工場、食料品等、社会へ訴えかける。各家庭の電気消費量を抑える為、日中公民館を充実させた上で開放すればガス削減になるし、老人の認知症予防、子育て世代の人も参加する事で地育での子育てとなり良い効果が出るのではないのでしょうか。
- ・ 料金プラン。
- ・ 熱中症など人体に関係するものなどの対策などはどのような学校施設でもあまりコストを考えず対処すべきであると思う。
- ・ 再生エネルギー（特に太陽光発電）の促進。
- ・ 太陽光発電、風力発電の推進。
- ・ 市内の各地区区長会等へ太陽光パネル設置を検討させ、再生可能エネルギーの利用を増やす（太陽光パネル設置には補助金等を支給する）。
- ・ 太陽光発電等の補助金があれば利用する人も増えるのではないだろうか。
- ・ 太陽光発電と蓄電の補助制度を府と協力して実践してほしい。市内の太陽光発電の電気を地産地消できるよう考えてほしい。
- ・ 風力発電、ソーラーパネルの設置。
- ・ 温室効果ガス発生源の第一は一般家庭であるから。照明なら LED に切り替える。これはイニシャルコストは高いが、ランニングコストが安く、電気の消費量は 1/2～1/3 になります。気候変動への対応は日本は 5 年以上前より既に亜熱帯気候になってきており、瞬時の大雨、これは南方ではスコールを云っているが、今迄の状態ではない。この為、短時間雨量に対する河川行政の見直しが必要で重要で。

- ・ たくさんの場所に目で見てわかるようなエネルギー使用量が把握出来たら、皆が少しでも意識できるのかなとも思います。
- ・ 竹野川のゴミツリーをどうにかして欲しい。
- ・ 子供の頃から、農業・水産業に係わる体験を増やし、地産地消の担い手になれるような、素質を身に着けておき、自然に関わりながら仕事に就ける人材を育てる。自然と共存することで、ガス削減の対応を推進する。
- ・ 温室効果ガス削減等に対し、公共交通機関の整備が必要不可欠だと思う。
- ・ 排出ガス（自動車）の削減、森林の整備。
- ・ もう少し公共交通に力を入れて欲しいが、利用者が少ないので中々進まない状況だと思います（路線バス、汽車の乗り継ぎが悪い）。
- ・ 公共の交通を利用するよう促す。公共交通会社を支え、運転手の手当を改善するよう促し、公共の交通を守る。
- ・ 市議会議員の公共交通機関の利用・駐車場問題、市民が遠慮している。審議する者が実践しないで机上の発言ではナンセンス、資格なし。
- ・ 市バスも乗る時間（学生）や多い時を考える（小さいバスを使って走らせて欲しい。あまり人が乗らない時間帯）。
- ・ 自転車に乗ろう運動。自転車にやさしい街をつくり、全国にアピールして観光資源にもする（なっている？）。会社は車、原付、バス、電車には通勤手当を出しますが、自転車通勤している人には環境手当を出す！
- ・ 私自身もですが、車を使う機会が多く、身体を動かす機会が少ない。通勤で自転車を利用するように促進する取り組みがあれば良いと思う。健康推進にもなると思います。
- ・ EVなどに補助金 50 万。
- ・ ハイブリッド電気自動車の購入補助金を設ける。
- ・ 電気自動車を普及させる為の補助金制度。
- ・ 京丹後市民の移動手段は主にマイカーです。なくてはならないです。排出ガスのことを思うと、水素ガスの車や電気自動車に乗りたいとは思いますが高い！！市が助成金を出して下されば少しでも乗る市民が増え 1 つの対策とならないでしょうか？
- ・ CO2 の排出は大きく工場と自動車だと思うので、燃焼せずにできるように手助けをしていく（補助金など）ハイブリット車をリースするとか？
- ・ 電気自動車が普及すること。
- ・ 水素自動車の導入。電気自動車。
- ・ 電気自動車の購入推進、山間放棄地の有効利用。
- ・ 地産地消、太陽光利用拡大、EV 車補助金。
- ・ 発電の仕組みをつくり、安い電力の供給、電気自動車の推進。
- ・ 緑を増やす。公共交通機関のダイヤ充実。
- ・ ごみ処理について。
- ・ ごみの分別を徹底する。電気をこまめに消す。浄水施設のグレードアップ。老朽化したインフラ施設の改修。
- ・ 学校・地域での行動。
- ・ ゴミ焼却で発電し、他市の見本となる。
- ・ 生ゴミの再利用（堆肥等）にして畑の土にて売る。そのお金で人件費にする。
- ・ ゴミ焼却場の廃熱利用の促進。
- ・ 気候変動の周期に入っているらしいが、なっからの対応よりなる前に 1 人 1 人関心を持ちたい。石油で作った製品等を使わないなど。（袋、洗剤等）。
- ・ 地球環境に配慮したエネルギーが得られる対策が必要。
- ・ 小さなことからコツコツ取り組む。
- ・ ヒートアイランド現象はすでにガス削減で対応できる状況ではないと考える。気候変動に対応できるライフスタイルの研究が必要ではないか。
- ・ エコカーに変えたりするのがいいのですが、京丹後市の給料ではそのようなことは無理だ。一人一人のちょっとしたことが意識的に出来ないとい何も変わらないから、小学校の時点で電気のスイッチをこまめに切ることの大事さを教えていくべきだ。

- ・ ①保育園、小中高生への教育②一般市民、企業向けのセミナー（でも真面目に聞く人いないかも）③スイッチオフ（ウィークデイ）をつくる④レジ袋有料化⑤節エネルギー大会実施（１番節約できた人に何かあげる）。
- ・ 家の中を必要以上にきれいにする事が地球を汚す小さな原因だと思います。
- ・ １人１人が自覚を持ってできることからまずやりだす。それが大きく広がっていったら市の方でも何かを（わからないが）考えていく。
- ・ 人口減にもかかわらずそもそも市で発生している温室効果ガスが増えているのか減っているのか、市民が明確に知っていないにもかかわらずアンケートをお願いするのはどうなんだろうか。
- ・ 必要性以外のエネルギーは絶対に使用しない一人一人の心構え。
- ・ 行政による啓発。
- ・ 家庭、会社、学校それぞれ出来る事から、ゴミを減らす、自転車で通勤する、海のゴミ、河川の汚れ、天候の変化、これからの災害を伝える・見る、意識改革が必要。夏の海水浴のゴミにはびっくりした。地元の人に限らず遊びに来る人にも京丹後市の取組を訴えれば良いと思います。
- ・ 私のような主婦でも、もっと環境問題について考える時間をしっかり作り協力できるような場を増やしてほしい。
- ・ エコ生活についてくり返し広報等を行って下さい。
- ・ 興味を持って知識が得られる様な分かりやすい情報を繰り返し発信する事。
- ・ 一般市民一人一人が対応可能な、身近な所での「節電・省エネ」方法の周知・広報を積極的に実施して下さい。
- ・ 市民の意識がないと駄目なので、広報を通じてPRを続けていく事が大事だと思います。
- ・ 市民への周知を常に行い、一人一人が取り組んでいくことが大切だと思います。
- ・ 市民への（広報での）呼びかけされ、実行に向かって努力を重ねること。
- ・ 市民への周知。
- ・ 年寄りにもわかりやすく、何度も広報する。
- ・ イベント、広報誌による周知。
- ・ 市民がもっと環境・地球温暖化について理解する事が重要だと思います。
- ・ ニュース、新聞、広報誌に結構目を通してはいるが、温暖化が現実的な問題として伝わってくる様な報告の仕方を見ることがないと思う。本当にリアルな問題として伝える気があるのだろうか。
- ・ 問題となることを広報誌で視覚的に訴える。雑誌の切り抜きのように。
- ・ 市民への意識付け。
- ・ 根本的な人類の意識改革。
- ・ 一般向け出前講座の積極的な推進。
- ・ 若い世代への教育。
- ・ まずは個人個人が自覚を持っている様にする事。その後、全体に。
- ・ PR活動の強化。
- ・ この問題に対する一人一人の自覚。
- ・ 最終的には個人の意識が大。
- ・ 情報をどんどん広めて多くの人に取り組めるようにするような地味な方法で少しずつやっていく。どちらにしても30代には行きにくい土地なので、何かしたくても生活できないようでは周りについて考えられないです。
- ・ 年度末になるとあちらこちらで道路工事、または山をけずったりする作業が見受けられます。予算を使わないといけないではなく、本当に必要かどうか、出来る限り自然を残すため、今後検討課題ではないでしょうか。
- ・ 代替燃料CO2、森林の大規模伐採、産業革命。
- ・ 説明が大切。
- ・ ひとりひとりに何が出来るかを考えて、生活環境を少しでも見直していくことが大切だと思います。その為の情報と支援も大切だと思います
- ・ 市民一人一人の意識レベルを上げ、一丸となって取り組むべき問題だと思うので、まずは市民の関心を高める為に、具体的な対策について発信していく事が大切だと思います。町単位あるいは地区単位で目標を決め、適応策として対応した項目等を実践し、結果まで報告して貰うというような取り組みを考えて頂きたいです。

- ・ 地方ならではの施策を講じることが重要ではないか。
- ・ 他国や他府県でどのような動きをされているのか、私達が日頃出来る事があるのか教えてほしい。
- ・ 国が主導しないと不可能。
- ・ 国レベルの対応じゃないと無理だと思う！
- ・ 夜は早く寝る、コンビニは0：00までに閉める。
- ・ 最後まで何から何まできっちりとして欲しいです。よろしくお願いします。
- ・ 話のスケールが大きくてよくわかりません。
- ・ そんなことより、もっと改善すべきことがあるんじゃないですか？紙媒体でのランダムなアンケートも無駄だと感じます。

問15. 京丹後市の環境づくりや地球環境化対策への意見

〔自然環境について〕

- ・ 植林を行うと共に、山林の手入れ(生きた山づくり)を進めて欲しい。
- ・ 広葉樹林の復活。
- ・ 京丹後市は平地より山林が殆どの自然豊かな所です。市を1国でカウントするならば、豊かな山林で京都議定書は十分にクリアしていたと思う。しかし、だからと云ってそのままの放置では荒れるのみ(もうすでに荒れ放題であるが)、常緑樹の保全を計画的に実行する事が第一です。
- ・ 里山の整備、環境整備のため、高齢者の活用→老人会、婦人会活用の為の補助金増額。
- ・ 緑を残す事。
- ・ 植えられた木はむやみに切らない事。
- ・ 森林の整備、丹後松島と言われているが松が激減してしまい残念である。
- ・ 野生動物と共存できる環境づくりを期待したい。
- ・ こうのとりがよく来ているので安全な農地環境をとと思います。
- ・ 周辺市域は田畑が多いが、田に汚水流入があるのが気になります。当地域でもコウノトリが住み着いたり、メダカやカブトガニが生息する環境整備。
- ・ 森林保全の実施。
- ・ 獣害は、森林や里山の環境をすでに悪化させている。広葉樹林の下草すら食害でなくなっている状況で、山に入っても雑草の種類が激減している。今回のアンケートでも、この点が伺えない内容だった。獣害について農業被害や生活環境への影響と捉えるのではなく、自然環境を悪化させているという視点が必要である。
- ・ 緑化運動強化。

〔生活環境について〕

- ・ 家庭排水がそのまま川に流れ処理されないまま海に流れているのは改善してほしい。
- ・ 週に3回くらいドラム缶でゴミを燃やす人がいる。
- ・ 野焼きしている人が多い(ビニールとかも燃やしていると思う)。50~60代(意識低め世代だと思う)への教育が必要だと思う。
- ・ 久美浜湾内での水上バイクの禁止!騒音で住民は大変迷惑しています。又、水鳥や魚等の生態にも大きな影響を与えています。
- ・ 道路のゴミが多い事が気になります。
- ・ ゴミの散乱対策。
- ・ 道路淵や海、山に不法投棄されたゴミを回収して欲しい。
- ・ 田や畑に空瓶や買い物袋にゴミを入れて捨てないようにして下さい。
- ・ 竹野川のゴミツリーをどうにかして欲しい。
- ・ 台風や大雨で川が増水した後、周囲の木々、橋などに引っかかっているゴミの撤去を早く行ってもらいたい。海も浜にたくさんのゴミが漂着するので早めに対応をしてもらいたい。景観にもよくないと感じます。
- ・ 広範囲の市内だが市職員の市内の巡回を望む(特に台風等の後)河川、海の汚れゴミなど。アンケート等の実践に向けて努力をして欲しい。
- ・ 家の近くに普段は溝、雨が降ると川になる所があります。昨年の台風で土砂が流れてきて、今もそのままです、草はそんなに生えていませんが、ゴミが流れてくるとよくひっかかっています。以前わざとゴミを捨てている人を見ました。何か気分悪いです。
- ・ 浜公園のカヌー艇庫の前に漂着物がいっぱい。定期的に処理していただいているようですが、カヌーの練習が頻繁に行われている時期は回数を増やして処理して頂けると、見ばえも学生の気分も良くなるのでは。
- ・ コンバインにより粉碎された稲わらの海への流入防止策。
- ・ 兵庫県が実施している里山の整備、空き家、空地対策など、所有者の責任を問い、働きかけをしてほしい。
- ・ 水害防止、竹野川堤防の整備をしたい。現状は雑草等が木の如く茂っていて、ゴミ捨て場の如くなっている所もある(河川整備の実行)。
- ・ 車で道路を走っていて、いつも思うのですが暖かくなると雑草がよく伸びて見苦しいです。市で難しいなら市民の協力を得て、もう少し街全体をきれいにしていこうお願いしたいです。観光に他の地域から来られる方にも印象が良くないと思います。※早朝に草取りボランティアをしてもらい地域で使えるポイント券を出すとかすれば良いと思います。

- ・ 昨年は京丹後市内で洪水が多発しました。河川の整備、防潮堤などを、また排水口が逆流して田畑に水が入ってくるのを防いで欲しい。
- ・ 峰山町は下水道使用の家が少ない様に思う。
- ・ 京丹後市には早く下水道を作る事。
- ・ 下水道の整備等をしてほしい（汚水臭い等昼食の最中には参ってしまう）。
- ・ 下水道など、生活排水。
- ・ 下水道については設置に経費がかかり、高齢者家庭にとっては大きな負担（清掃環境にとって良くて）。
- ・ 環境づくりの一環として全市内の下水道の設置。
- ・ 市内全域、下水道を通して欲しい。なぜここまでは良くて、この先からは工事しないのか。山奥はダメなのか。
- ・ 地産地消、下水道全域設置。（株）茨城製作所、13G080775 設置及び購入補助金。
- ・ 環境づくりに関連して有害鳥獣対策など生活に身近な所に力を入れるべきと思います。
- ・ 動物の被害が年々増えています。もう少し対策に力を入れて欲しい。
- ・ 有害鳥獣を山に返すと共に空気を綺麗にする。
- ・ イノシシ対策。田畑を取り囲む柵等は美観に響く。集中して駆除していただきたい。荒れた里山も見苦しい。観光に力を入れるなら手入れすべき。
- ・ 今年の秋朝 8:00 頃、子供の通学路にシカが出ました。手が届くほど、近かったそうです。もっと身近な所での環境を整えて欲しいです。
- ・ 有害野生動物の対策を考えてほしい。
- ・ 猿を殺すことは出来ないそうですので、せめて私たち宇川地区のせめて 100 匹くらい一時的に薬で眠らせ、猿のいない地区へ移動させ、田畑の作物で生かしてみてもどうですか。
- ・ 禁狩区制の見直し。
- ・ 交通の便が悪すぎると思います。山奥や人口の少ない所にもバスが通っていれば、例え平日、車に乗っていても週末とか乗らなくなるし、排気ガスが少しだけでも減ると思います。
- ・ 通学路に自転車走行スペースが殆ど取られていない。歩いている時も車に乗っている時も不安です。
- ・ 環境、というのを「自然」ではなく「人工的」なものに限定すれば、道路（特に歩道の無い道、街灯の無い道）設備の不足を改善してほしいです。車文化なのはわかりますが自転車で行くと道の悪さが目立ちます。
- ・ 遊歩道の整備、伐採した後の植樹等何十年か後に向けての整備は必要になると思います。自然と触れ合いながらのウォーキングが出来るようになると外からの人間も増えてくるのではないのでしょうか。
- ・ 公園をつくってほしい。
- ・ 屋外で子ども達の遊ぶ空間が少ないです。公園などあっても遊具が古く安全性にも疑問があります。屋外での遊び場の充実をお願いします。
- ・ 府内では大きな干渉をする環境汚染を行っておらず、私の視点では問題が感じられない。

〔地球温暖化について〕

- ・ 水力、風力の利用。
- ・ 太陽光や風力等、土地にあった地域環境に対応を希望。
- ・ 再生可能エネルギーを利用する施設を作る。
- ・ 太陽光パネルの意味が京丹後市においてはあまりないと思う（天候により）。
- ・ 全国に先がけて再生可能エネルギー（特に太陽光発電）の取り組みを進め、環境改善と観光振興をセットにした売込みでアピールしてほしい。
- ・ 実験的な設備をつくる（下記の関係で）パンフレット・他では全く不十分。太陽光、波高、他、発電の実践（一気に出来ないが展示、特に実験的な設備をつかって～スイス村は多くの人目に見えない）。一定のスペース、又は海で太陽光、波、風力など、展示的な、よく眼に入る所で設備を創り実験的に行う事。
- ・ 市内には、いくつかの太陽光発電（メガ、ソーラー）がありますが、それで市の収入にプラスになっているのか？は市民には分からないのでは？
- ・ 全市内家庭の電灯球の LED 灯に補助をして変換する。思い切った政策で見える化を行う。山間部集落（川が有る事）での水力発電（小規模）事業。
- ・ 根付くまでは節電などのエコな行動をポイント制にして、ポイントを環境関係の事業に寄付した

りエコ商品に使えるようにする。

- ・電気料金、電話料金等「安くなります、見直しませんか？」と電話が掛かりますが良く分からないのでお断りしています。
- ・電気自動車の推進。
- ・ハイブリッド電気自動車を購入しやすくしてほしい。
- ・車をハイブリッドまたはEVにしていける。名前はわかっても内容がわからないものが多い。
- ・クールチョイスを知らなかったし、区長からも聞いた事がない。行政において意識付けをして欲しい。
- ・各家庭に標語（火の用心の様な）を配り、目に付く所に貼り、啓蒙する。出来れば電気・ガスの使用量の1年間の実績を記入出来る表を配る。
- ・地球温暖化について、何か対策をしないといけないと思うが何からしたらよいか具体的によくわからないし、できているかもわからないので、目標（市で行う）がほしい。身近なもの。実感できるもの。
- ・地球温暖化対策などについては、国や都道府県などで解決していくべき問題であると思います。
- ・京丹後で地球温暖化対策をまじめに考える必要があるのか疑問。他にやるべきことがある。
- ・広告（チラシ）等多くて紙の無駄が多い。

〔循環型社会について〕

- ・ごみの分別、節水・節電
- ・ゴミや無駄を減らす。
- ・ゴミ（特にプラゴミ）の廃棄は大きな課題です。田舎であるにもかかわらず毎日大量のゴミとその処理。包装紙過剰な装飾は条例で抑制を。リサイクル（ゴミ）については今後も市の援助は必要です（必ず問題発生します）。
- ・ゴミの収集について、ゴミステーション（カゴ型）の普及をすすめて欲しいです。
- ・プラゴミの自宅管理が大変。リサイクル場所の常設化をしてほしい。
- ・もっとリサイクル項目をふやす、生ごみも分別収集（我が家は2日に1回10ℓバケツ1杯になる）各家庭でこれだけの量のごみが出て燃やしているとなるとどうか。
- ・高齢者の方はごみ処理について協力しなさすぎる。こまかな作業は難しいと思うが、何でもかんでもすぐ燃やしてしまう。高齢者向けのゴミ処理の仕方セミナーみたいなのをしてほしい。

〔産業について〕

- ・農業などの活性化。
- ・伐採肥料の大幅減と（与謝野町の様な）循環型農業と農産物販売。
- ・海と山の自然に囲まれている京丹后市なので、地場産業が途絶えることなく、若者が活躍できる、魅力ある市になって欲しい。中心的な所にばかりお金を使い、過疎地が置き去りにされている感じがします。
- ・今の丹後に未来は正直感じない。稼げる仕事もない。もっと自然にやさしくエコの街を掲げ、きれいな海、きれいな里を守り観光につなげるべきだ。

〔参加・協働について〕

- ・クリーン作戦等、市での予算化された事業期間のみ地域の協力が出来るが、切れれば活動が継続せず美化効果が薄れていく。定着化が課題で、個人で道の周辺に花を植えている現状。
- ・集落単位でも、個人単位でもできることがあれば参加したいと思います。
- ・環境保全の為に活動にはボランティアで積極的に参加を続けていきたい。
- ・子供達の美化活動の参加（ゴミ拾い、分別等）＊大人はかなり活動されている。
- ・問14に関連して、基本的な事項をPRして市民が率先して実行する様に続けていく事が大切だと思う。
- ・いろいろ京丹後市民の為に考えていただきありがとうございます。一人一人が意識して行動出来る事が1番大切ですね。これからもお世話になります。

〔環境教育・学習について〕

- ・教育を続けていくしかないと思います。
- ・環境づくりをする為に地域の皆で興味・関心をもてるような講演会・体験会をこれからも実践していって欲しいと思います。
- ・市民1人ひとりの意識レベルを向上させる事が重要だと思います。
- ・1人1人が地球温暖化への危機感、理解、知識などを持つ事が出来れば少しは変わるのだろうか。

皆が少しずつ eco を意識した行動が出来るような町になってほしい。

- ・ 環境問題は個人や企業の意識のレベルによるところが大きく、日常生活、企業活動の中で少しでも実行できるよう PR や指導が必要。市が率先して様々な取組みを。
- ・ 私も含め各個人の認識が先ず大切か？
- ・ 家庭向け、企業団体向けの取組み方を紹介してください。市民に考えてもらえる機会も必要ですね。今後も私自身も取り組んでいきます。アンケートありがとうございます。
- ・ 分別ごみの協力が向上している一方、地方地区でも不法投棄などの問題が出てきています。新しいことをはじめる前に 1 人 1 人が環境づくりについて意識をもつこと。そのため、現状を市民に知ってもらう講座などがあってもよいのではないかな。

〔その他〕

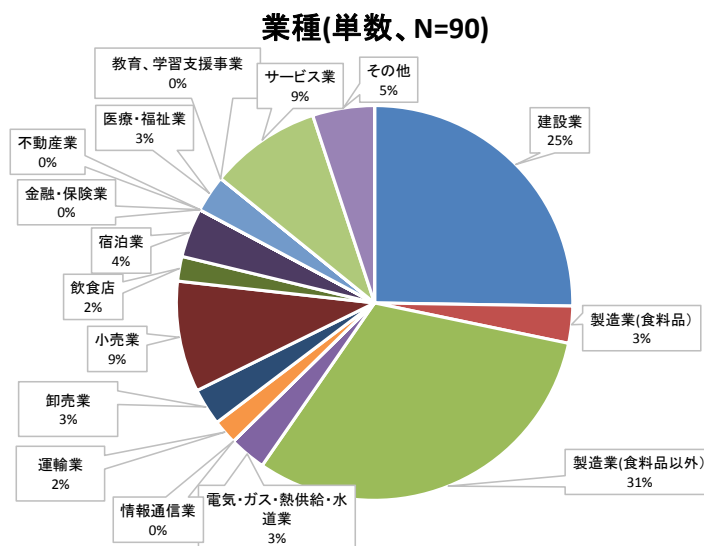
- ・ もっと宣伝する。
- ・ さらなる広報の充実をのぞみます。
- ・ 広報誌等やケーブルテレビ等での啓発活動。
- ・ 何の発信も届いてこない。リーフレットを作るにも大人も子供も理解しやすいものを作るべき。難しい言葉や英語など少しも響いてこない。このようなアンケートも当てはまるものに丸をとかではなく言葉のほうに伝わるのではないのでしょうか。
- ・ 市で策定した事柄が市民によく伝わってこない。ただ策定しただけでは絵に描いた餅になってしまいます。策定した基本計画をどのようにリリースするか再度考え直すべきと考えます。
- ・ 個人でしている「よい」事を集め、広報誌に載せる。
- ・ 家の中にいると（有線なし）防災その他の放送が聞き取りにくい。はなれに住む。
- ・ 京丹後市は日本国内ならず、世界に誇りうる環境です。国内外に知ってもらい日本一のまちづくりに努力しましょう。
- ・ 生活スタイルの抜本的見直しを意識改革のレベルから進めるための対策を考える必要がありますが、京丹後市の問題ではなく、世界の文明国すべての課題でしょう。文明の進歩は人類の運命のようにも思えますから、すべての地球人の意識改革は途方もないエネルギーと時間が必要です。この二律背反をどう克服するのか、極めて難しい先行きだと思わざるを得ません。
- ・ 積雪があったときはすぐに除雪するように。環境づくりや地球温暖化対策も大事と思うが、もっと他の事にも今以上に力を入れるべき。子育て支援やこれから子供を産む人、結婚を考えている人等、これからの人達に支援をしっかりとすべき。
- ・ 京丹後市で出来ますか？久美浜湾、山陰海岸、流れ込む河川の水質改善、ゴミ処理くらいか。
- ・ 高齢化が進む中、いろんなしがらみがありすぎるのではないかな。例）有害鳥獣は猟友会しかダメとか。資格有りの人だったら活用して人材確保とかどうでもいい。ルールはどんどん排除。
- ・ 他市、他県と似た取組はしているように思うが、「京丹後市の取組」を進める必要があるように思う。
- ・ 市の職員、市長、議長が進んでエコカーとか京丹後市として何がしたいか、はっきりする事。京丹後市では温暖化対策よりもっと切実で大事な事がある。このアンケートもなんかピンとがずれていて何の役に立つのか。
- ・ 市長や議員が率先して口だけでなく自らリーダーシップを取り市民の意識を導く事。
- ・ 皆が住みやすい環境づくりを一人一人出来る事からしていきたいと思います。
- ・ 自然にちかい整備。
- ・ 京丹後市はいい所だと思います。感謝しています。
- ・ 期待している。
- ・ 環境づくりは今まで失敗ばかりですね。
- ・ 今回このアンケートに応える事でもっと市の活動についても興味をもって知っていくこともひとつ協力することにつながるので感謝しています。ありがとうございます。
- ・ 立場により回答は違うのでしょうか。
- ・ アンケートについて訪問の仕方にもう一工夫が欲しい。YES 又は NO だけでは計れない事もある。
- ・ 今後も定期的にアンケートを行って頂き、一つでも改善できるよう、望んでいます(アンケート作成お疲れ様でした)。
- ・ 良い取り組みだと思います。

(3) 事業者意識調査結果

以下に、各問の調査結果を示す。

問1-1 業種

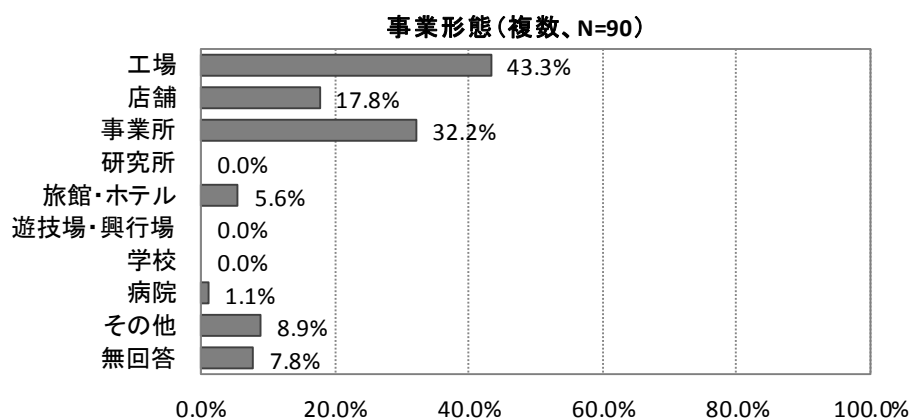
- ・ 「製造業(飲食品以外)」(31%)が最も多く、次いで「建設業」(25%)、「小売業」(9%)、「サービス業」(9%)と続く。



その他	
倉庫管理	娯楽業
塵芥収集運搬業	障害者施設
NPO	

問1-2 事業所の形態

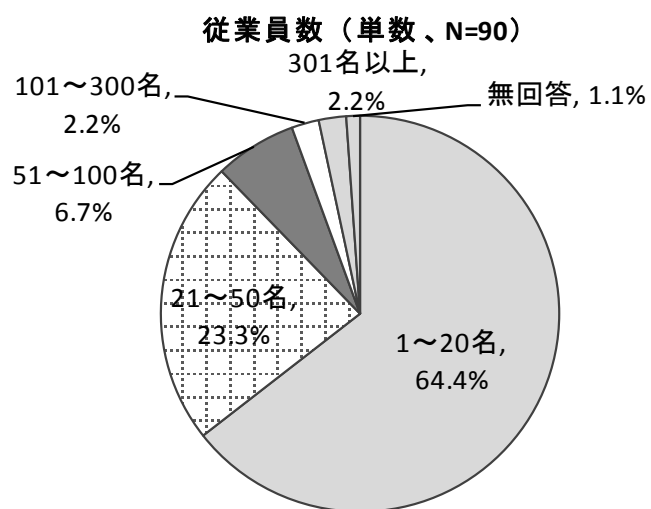
- ・ 「工場」(43.3%)が最も多く、次いで、「事務所」(32.2%)、「その他」(8.9%)、「旅館・ホテル」(5.6%)と続く。



その他	
福祉事業所(2 件)	車庫
式場、ホール	古民家の活用、他
軽作業場(下請け)	

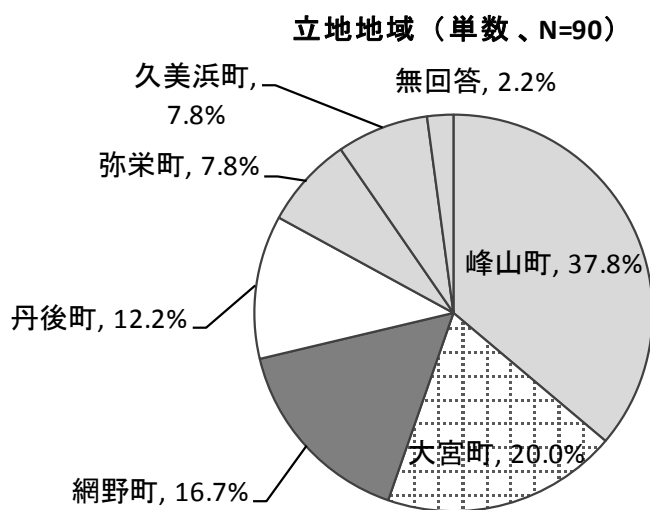
問1-3 事業所の従業者数

- ・ 「1～20 名」(64.4%) が最も多く、次いで、「21～50 名」(23.3%)、「51～100 名」(6.7%)、「101～300 名」(2.2%) と続く。



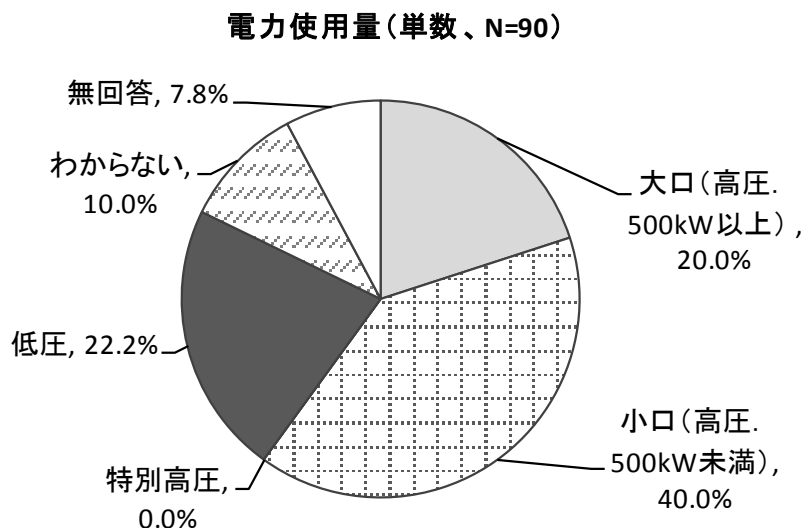
問1-4 立地地域

- ・ 「峰山町」(37.8%) が最も多く、次いで、「大宮町」(20.0%)、「網野町」(16.7%)、「丹後町」と続く。



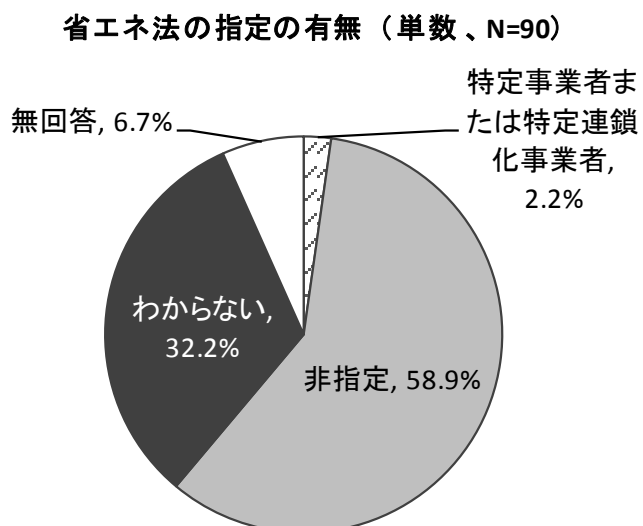
問1-5 電力消費量

- ・ 「小口（高圧. 500kW 未満）」(40.0%)「と最も多く、次いで、大口（高圧. 500kW 以上）」(20.0%)、「低圧」(22.2%)、「わからない」(10.0%) と続く。



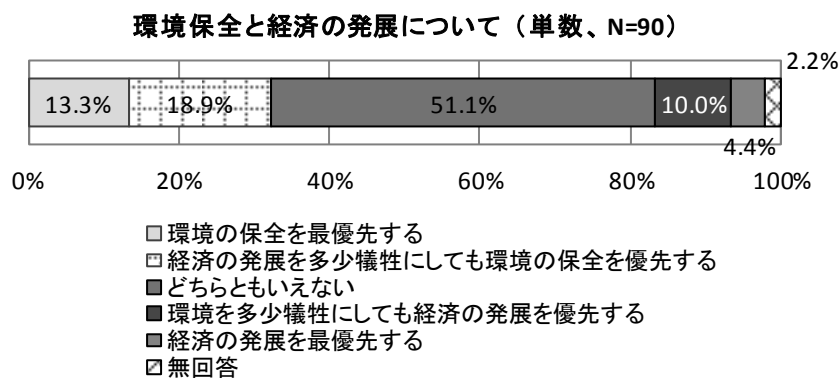
問1-6 省エネ法の指定の有無

- ・ 「非指定」(58.9%) が最も多く、次いで、「わからない」(32.2%)、「特定事業者または特定連鎖化事業者」(2.2%) と続く。

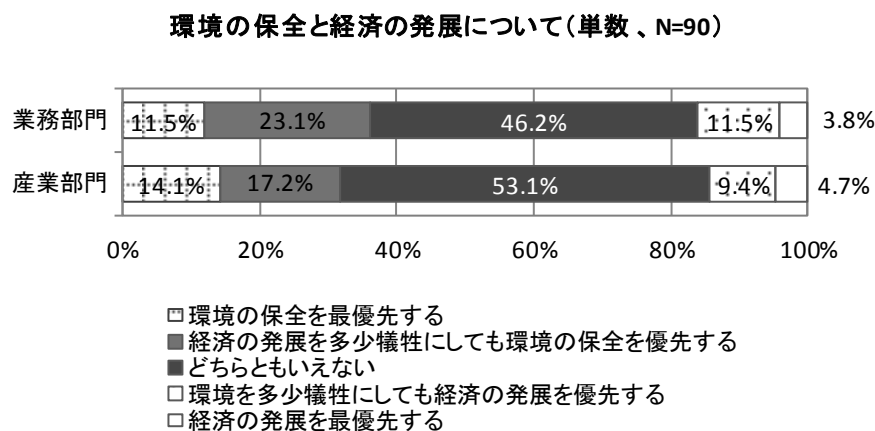


問1. 環境の保全と経済の発展について、どうお考えですか。

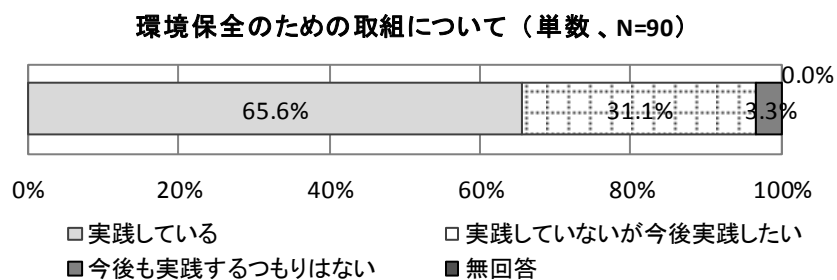
- ・ 「どちらともいえない」が最も多く、回答の半数を占める。次いで、「経済の発展を多少犠牲にしても環境の保全を優先する」（18.9%）、「環境の保全を最優先する」（13.3%）と続く。環境を優先すべきと回答した事業者は、約3割を占める。
- ・ 部門別にみると、業務部門、産業部門ともに、環境を優先すべきと回答した割合が、約3割を占める。
- ・ 産業部門では、半数以上の事業者が「どちらでもない」と回答している。



[部門別]



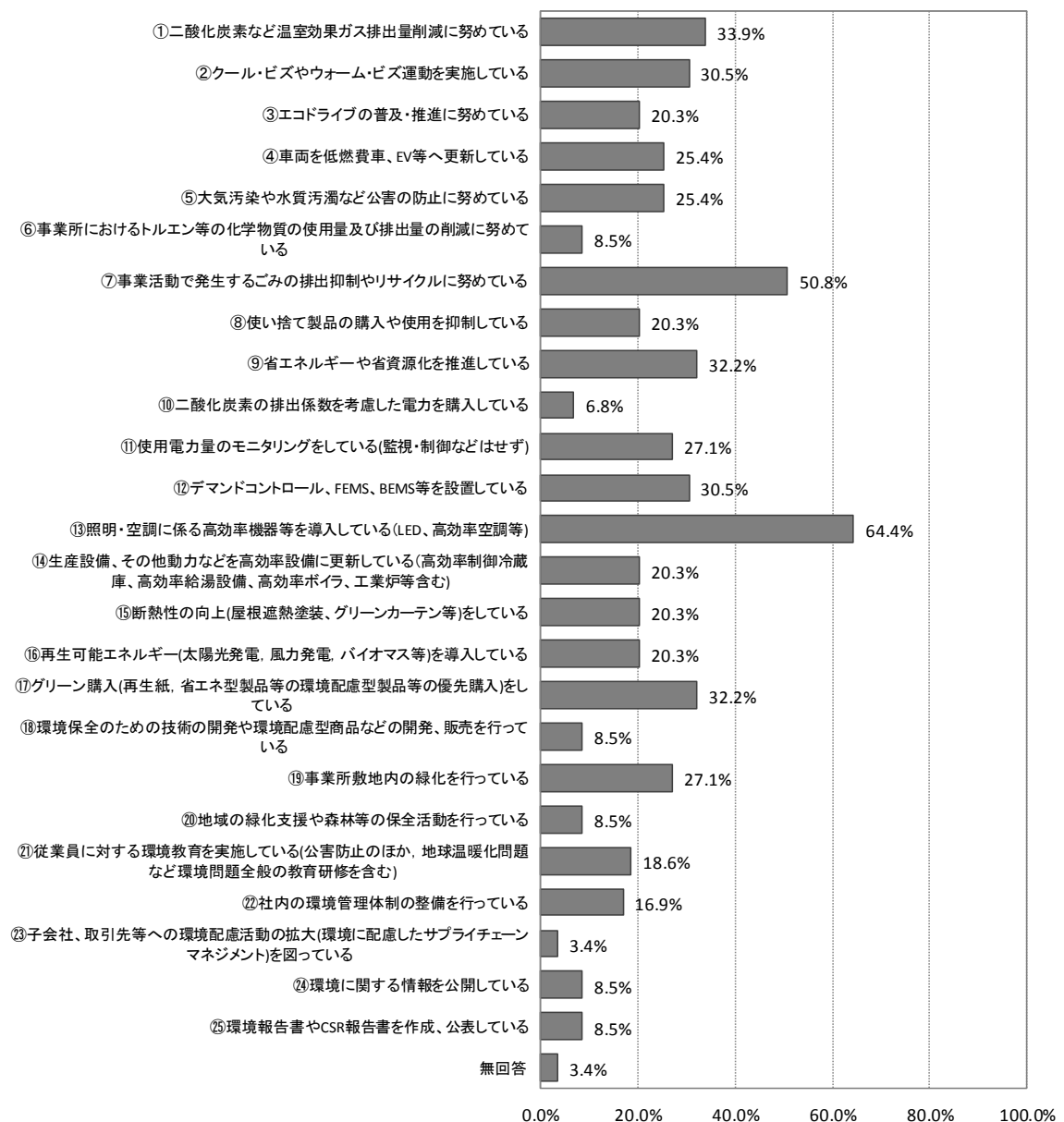
- 問2. 貴事業所は、事業活動の中で、環境保全のための取り組みを実践していますか。
- ・ 「実践している」(65.6%)が最も多く、次いで、「実践していないが今後実践したい」(31.1%)、「今後実践するつもりはない」(3.3%)と続く。



問3. 貴事業所において、実践している取り組みはどれか。

- ・ 「照明・空調に係る高効率機器等を導入している（LED、高効率空調等）」（64.4%）が最も多く、次いで、「事業活動で発生するごみの排出抑制やリサイクルに努めている」（50.8%）、「省エネルギーや省資源化を推進している」（32.2%）、「グリーン購入（再生紙、省エネ型製品等の環境配慮型製品等の優先購入）をしている」（32.2%）と続く。

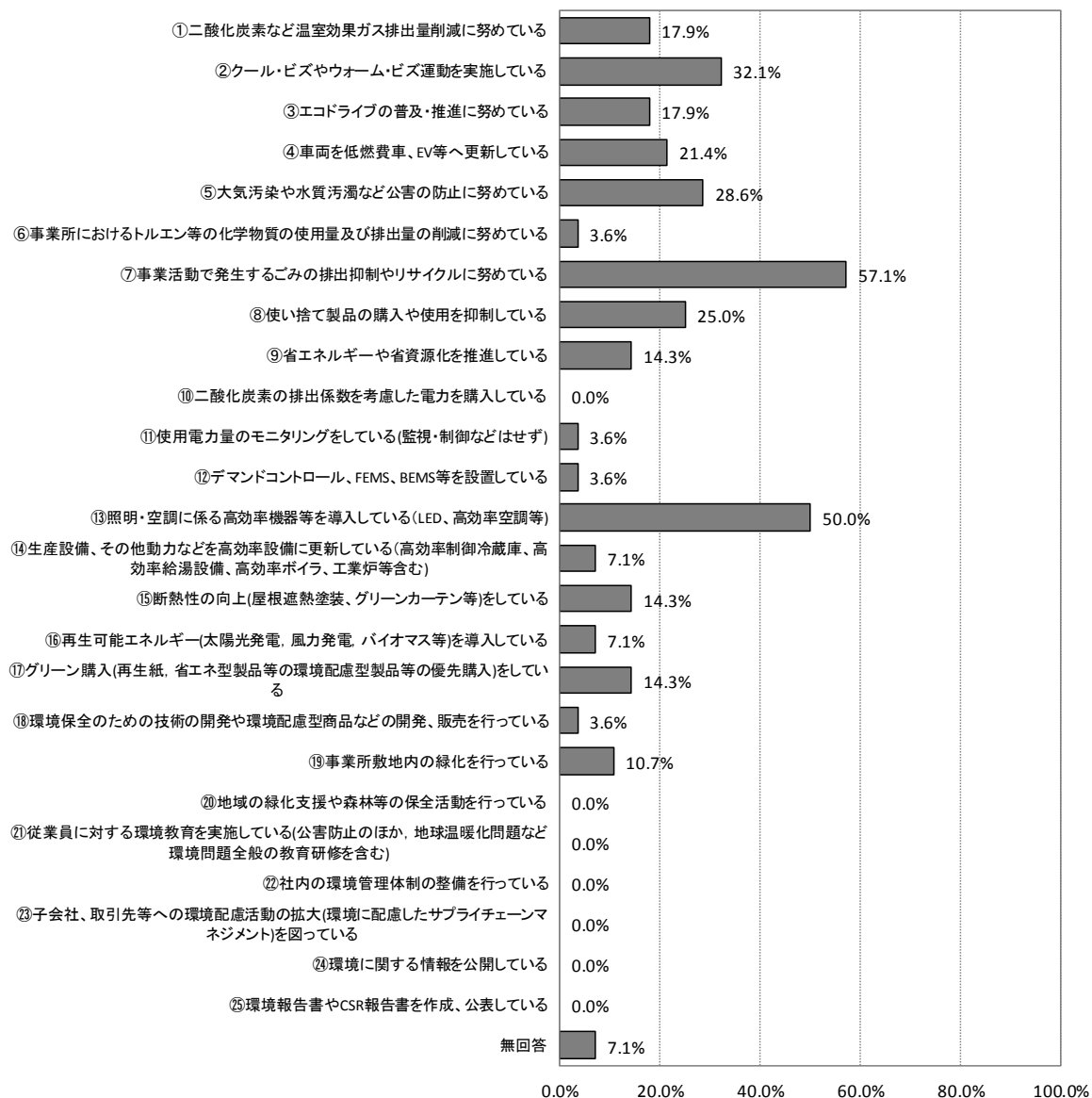
実践している取り組み内容（複数、N=59）



問4. 貴事業所において、今後実践したい取り組みどれか。

- ・ 「事業活動で発生するごみの排出抑制やリサイクルに努めている」(57.1%) が最も多く、次いで、「照明・空調に係る高効率機器等を導入している(LED、高効率空調等)」(50.0%)、「クール・ビズやウォーム・ビズ運動を実施している」(32.1%)、「大気汚染や水質汚濁など公害の防止に努めている」(28.6%) と続く。

今後実践したい取り組み内容(複数、N=28)



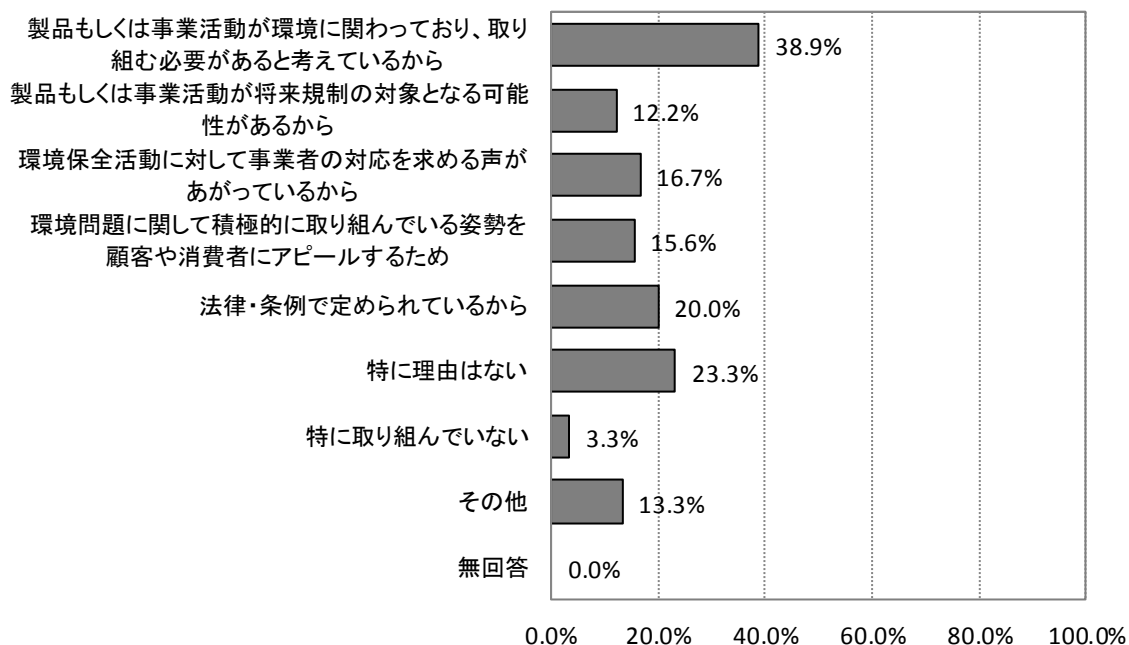
問5. 貴事業所において、今後も実践するつもりはないとする理由は何か。

実践しない理由
コストがかかるため

問6. 貴事業所が環境保全に取り組む理由は何か

- ・ 「製品もしくは事業活動が環境に関わっており、取り組む必要があると考えているから」(38.9%) が最も多く、次いで、「特に理由はない」(23.3%)、「法律・条例で定められているから」(20.0%)、「環境保全活動に対して事業者の対応を求める声があがっているから」(16.7%) と続く。

環境保全に取り組む理由(複数、N=90)

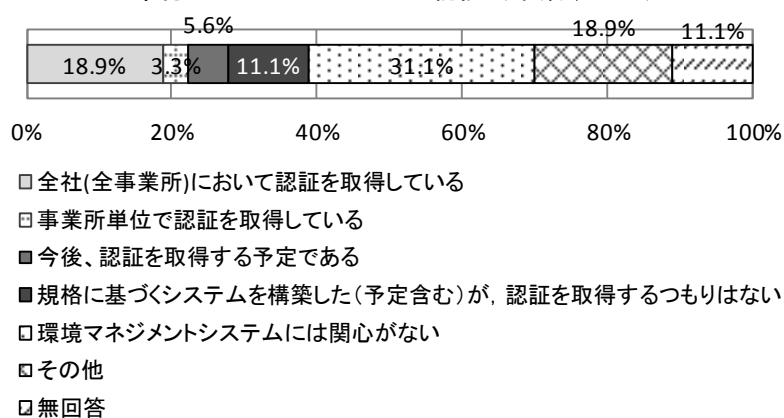


その他	
経費削減の為 (3件)	経済性にもつながっている為
地球規模で必要	会社の為になるから
将来の地球が大切だから	もったいない事はしない
企業として、人類として当然のことだから	とにかく地球温暖化を防止しなければの 思いで一杯です
世界的な問題となっている	

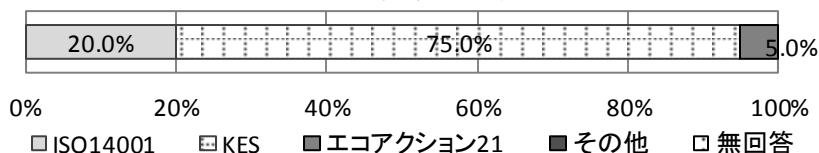
問7. 貴事業所では環境への負荷を管理・低減するための仕組みとして、環境マネジメントシステムの認証を取得しているか。

- ・ 「環境マネジメントシステムには関心がない」(31.1%) が最も多く、「全社(全事業所)において認証を取得している」(18.9%)、「その他」(18.9%)、「規格に基づくシステムを構築した(予定含む)が、認証を取得するつもりはない」(11.1%) と続く。
- ・ 2 割以上の事業者(全社、事業者単位)が、環境マネジメントシステムの認証取得を行っている。
- ・ 取得している種類については、「KES」(75.0%) と最も多く、次いで「ISO14001」(20.0%)、「エコアクション 21」(5.0%) と続く。
- ・ 部門別にみると、産業部門では、約 2 割の事業者(全社、事業所単位)が環境マネジメントシステムの認証を取得している。業務部門では、「規格に基づくシステムを構築した(予定含む)が、認証を取得するつもりはない」と回答した割合が、約 4 割を占める。
- ・ 取得している種類については、業務部門では「ISO14001」が約 6 割を占め、産業部門では「KES」が約 8 割を占める。
- ・ 従業員別にみると、従業員規模が大きいほど、環境マネジメントシステムの認証を取得している傾向がある。
- ・ 「1～20 名」では、4 割以上の事業者が「規格に基づくシステムを構築した(予定含む)が、認証を取得するつもりはない」と回答している。

環境マネジメントシステムの認証（単数、N=90）



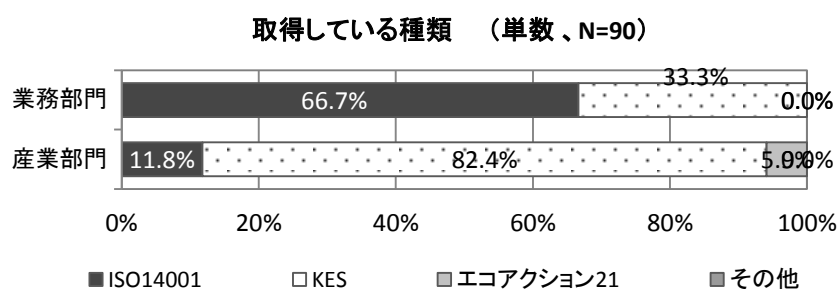
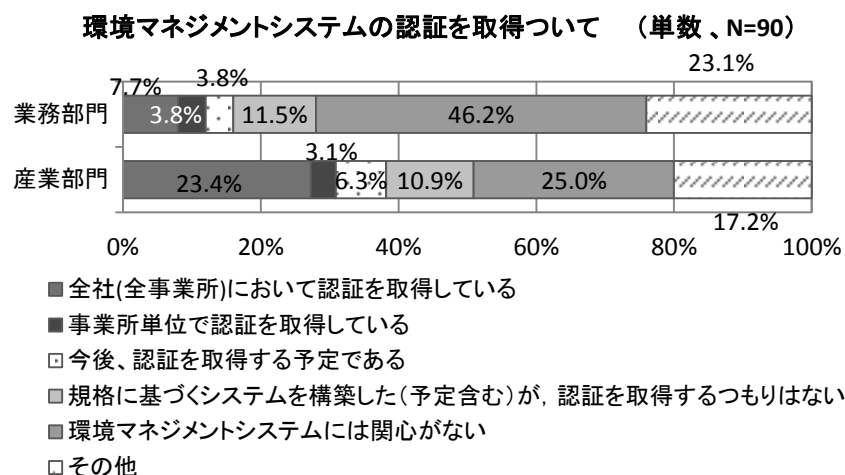
取得の種類（単数、N=90）



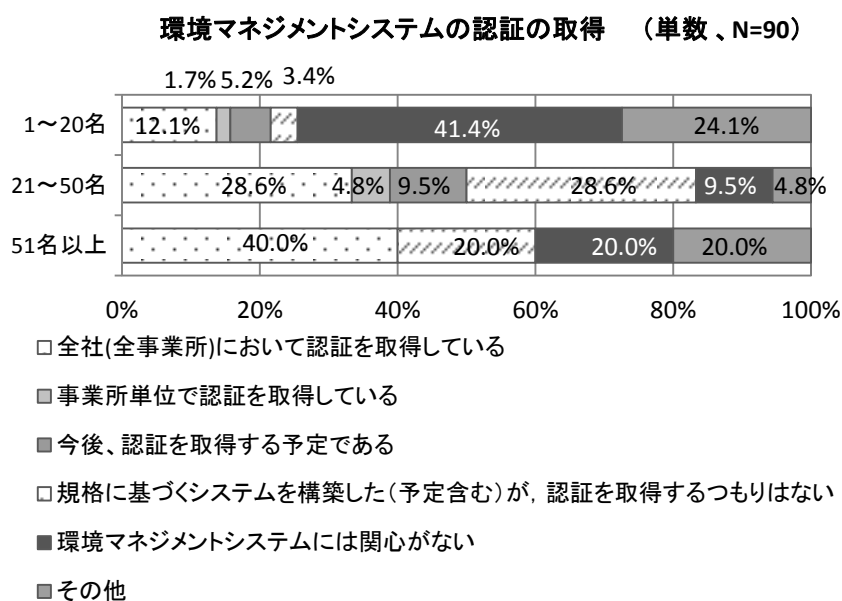
その他	
今の時点では、あまり考えた事がない(2 件)	環境保全の取り組みは重要。認証取得は考えていない
取引先が取得しています	必要に応じて取得する。
今の所必要がない	取得はしなければならないと思う
せめて KES を思っているが・・・	日本は全て昔から常識として教えられてきた。他の国に認証制度が生まれたからと言ってヤンヤンいう必要

	はないと思います（節約、ごみ処理、もったいない精神、常識、当たり前です）。
--	---------------------------------------

[部門別]



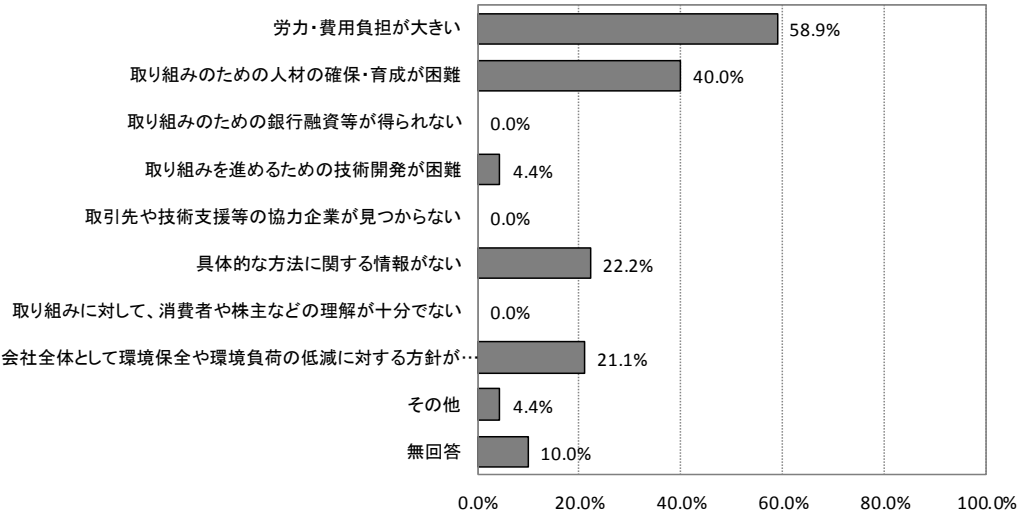
[従業員数別]



問8. 貴事業所が環境保全や環境負荷の低減に向けた取り組みを進めていく上での課題は何か。

- ・ 「労力・費用負担が大きい」(58.9%) が最も多く、次いで、「取り組みのための人材の確保・育成が困難」(40.0%)、「具体的な方法に関する情報がない」(22.2%)、「会社全体として環境保全や環境負荷の低減に対する方針が明確でない」(21.1%) と続く。
- ・ 半数以上の企業が、労力・費用負担の大きさを課題としている。

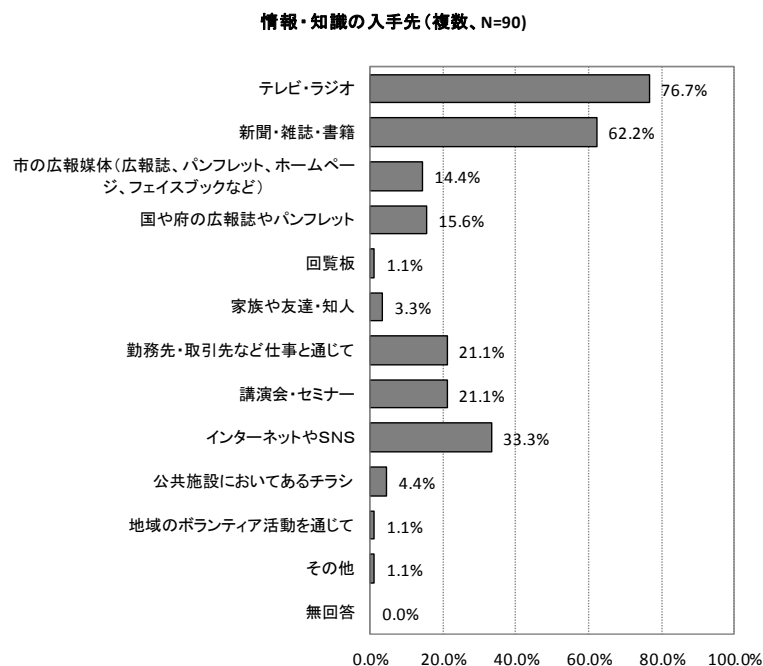
環境保全や環境負荷の低減に向けた取り組みを進めていく上での課題（複数、N=90）



その他	
マンネリ化する	率先しては出来ない。

問9. 環境や地球温暖化などについての情報、知識をどこで入手しているか。

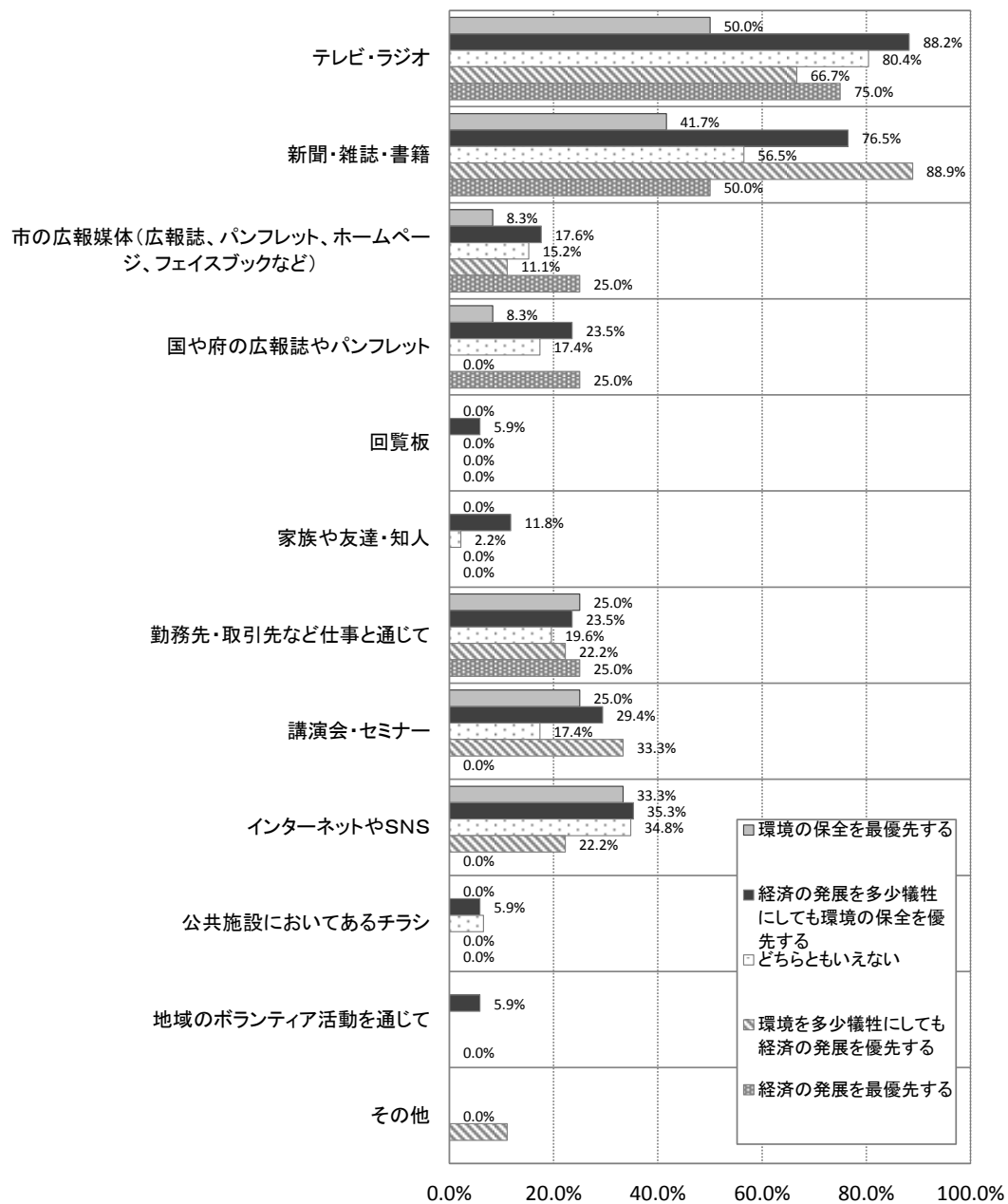
- ・ 「テレビ・ラジオ」(76.7%) が最も多く、次いで、「新聞・雑誌・書籍」(62.2%)、「インターネットやSNS」(33.3%)、「勤務先・取引先など仕事と通じて」(21.1%)、「講演会・セミナー」(21.1%) と続く。
- ・ 環境の意識別でも、全ての意識層のほとんどが、「テレビ・ラジオ」、「新聞・雑誌・書籍」から環境の情報を得ている。



その他
エアアクション 21

[環境の意識別(問2×問10)]

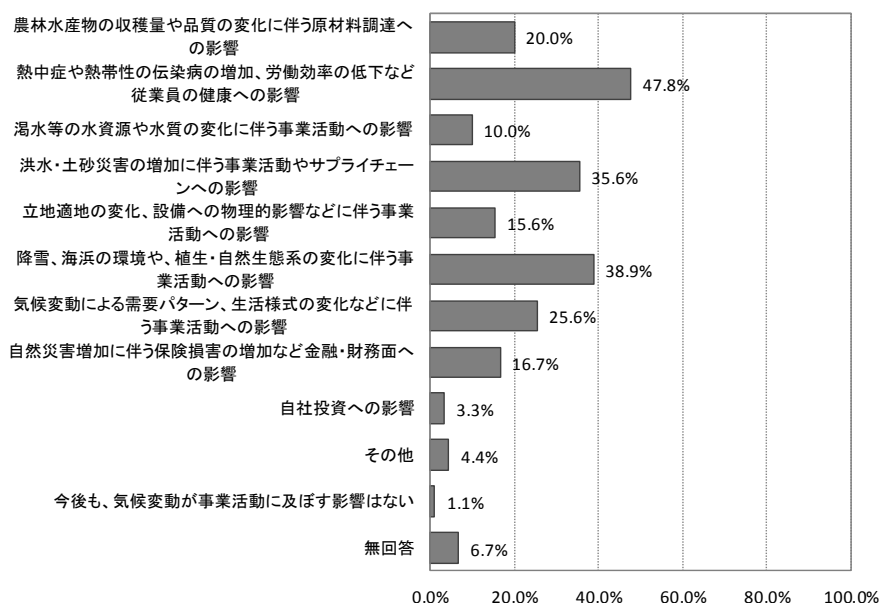
環境や地球温暖化などについての情報、知識をどこで入手していますか（複数）



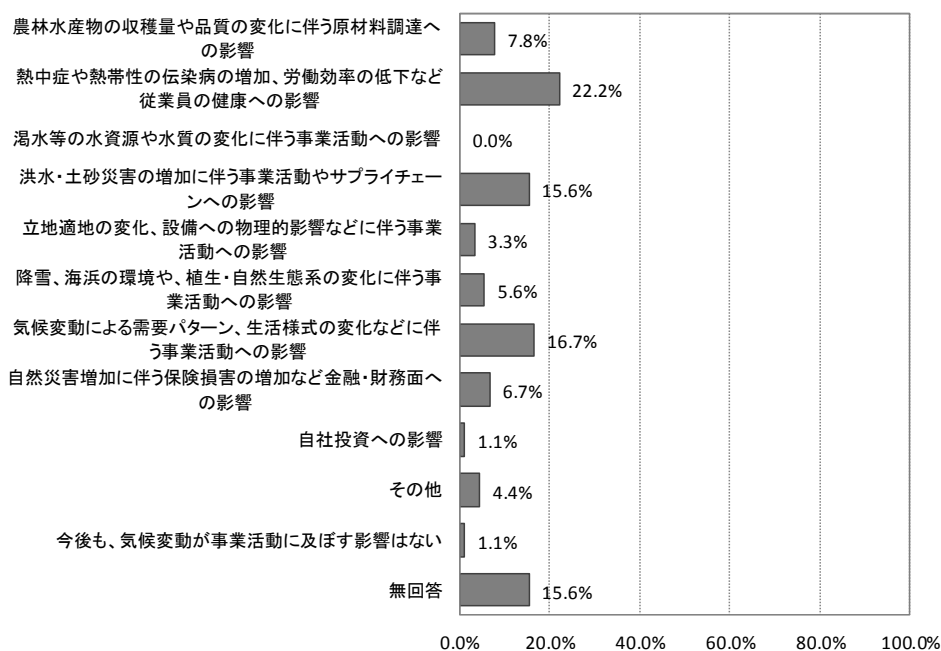
問10. 貴事業所の今後の事業活動に及ぼす影響が大きいと考えられるものは何か。

- ・ 「熱中症や熱帯性の伝染病の増加、労働効率の低下など従業員の健康への影響」(47.8%) が最も多く、次いで、「降雪、海浜の環境や、植生・自然生態系の変化に伴う事業活動への影響」(38.9%)、「洪水・土砂災害の増加に伴う事業活動やサプライチェーンへの影響」(35.6%)と続く。
- ・ 最も影響が大きいものとして「熱中症や熱帯性の伝染病の増加、労働効率の低下など従業員の健康への影響」(22.2%)と全業種に関係のある従業員の健康への影響が最も多かった。

今後の事業活動に及ぼす影響が大きいと考えられるもの(複数、N=90)



最も影響が大きいもの(単数、N=90)

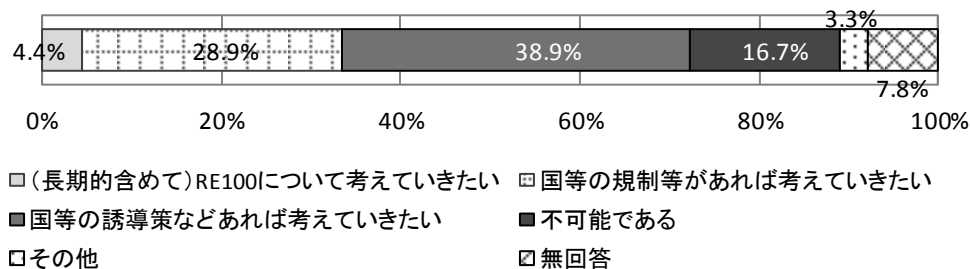


その他	
法規制の変化→仕様の变化	社会全体が将来に不安を持つ
経済活動の悪化	

問11. 貴事業所ではパリ協定、RE100 など地球温暖化対策の動きについてどう考えているか。

- ・ 「国等の誘導策などあれば考えていきたい」 (38.9%) と最も多く、次いで、「国等の規制等があれば考えていきたい」 (28.9%) 、「(長期的含めて) RE100 について考えていきたい」 (4.4%) 、「不可能である」 (4.4%) と続く。
- ・ 約 7 割の企業が、RE100 の取組に前向きな方針を持っている。

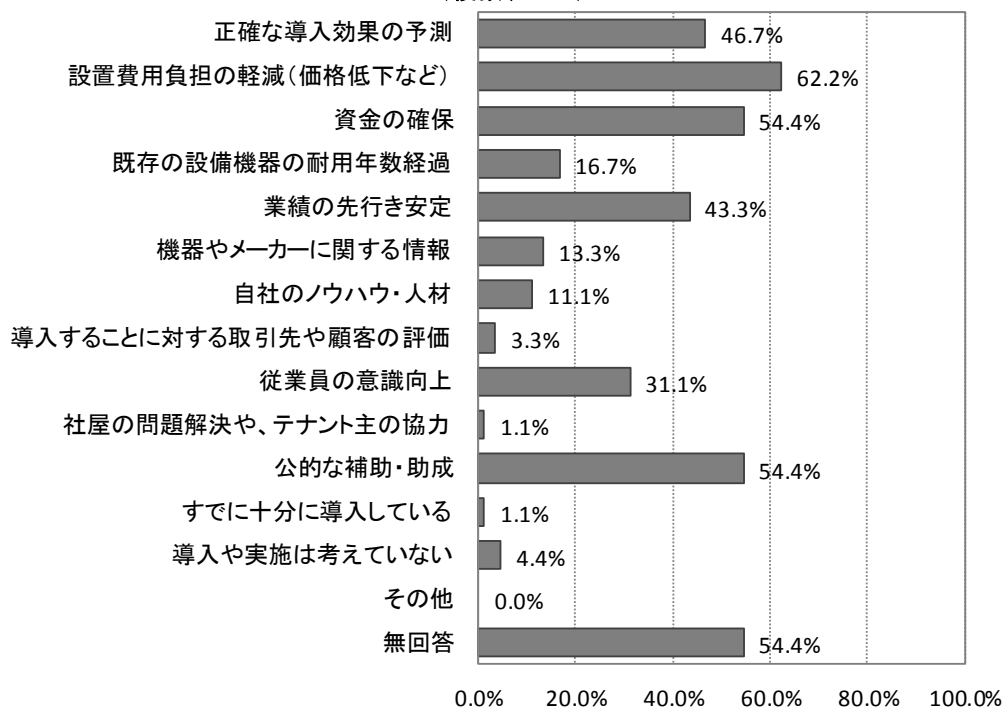
世界の地球温暖化防止活動への動向について (単数、N=90)



問12. 省エネ設備機器や新エネルギーの導入などの地球温暖化対策のための設備投資やその他の地球温暖化対策を貴事業所で行うためには、どのような条件が必要と思うか。

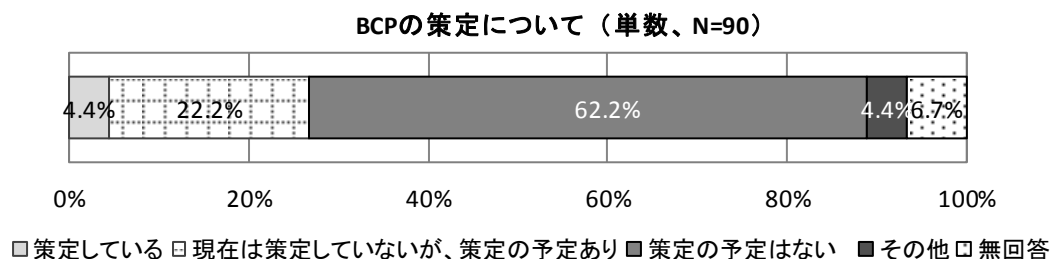
- ・ 「設置費用負担の軽減(価格低下など)」 (62.2%) が最も多く、次いで、「資金の確保」 (54.4%) 、「公的な補助・助成」 (54.4%) 、「正確な導入効果の予測」 (46.7%) と続く。
- ・ 多くの事業者が、設備等の負担等、資金に関する項目を取組みの条件としている。

地球温暖化対策のための設備投資や地球温暖化対策実施への必要条件 (複数、N=90)



問13. 貴事業所では、BCP（災害や事故などを想定し、事業継続の視点から対応策をまとめたもの）を策定しているか。

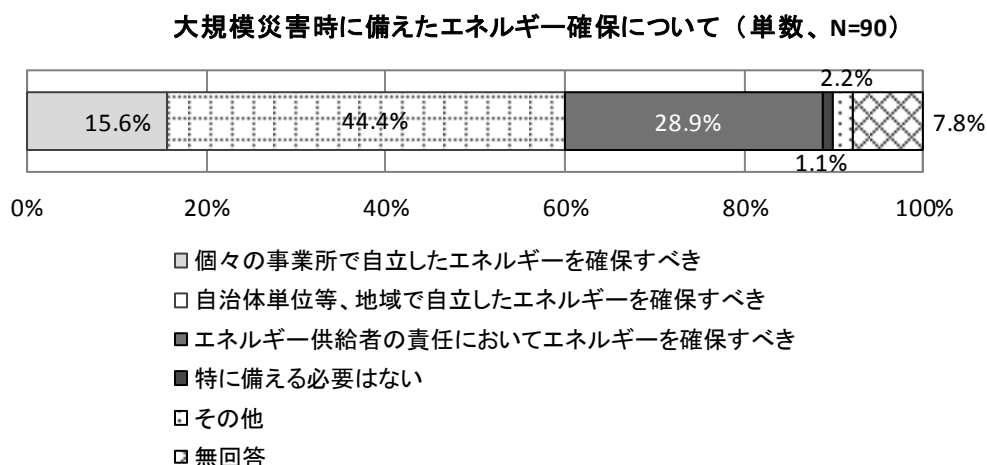
- ・ 「策定の予定はない」（62.2%）が最も多く、次いで、「現在は策定していないが、策定の予定あり」（22.2%）、「策定している」（4.4%）、「その他」（4.4%）と続く。
- ・ 約6割の企業がBCPの策定の予定は無いとしている。
- ・ 部門別にみると、両部門ともに「策定の予定はない」が約6割を占める。



その他	
本社にて対応？	策定していない。これから勉強する
策定したい	

問14. 大規模災害時に備えたエネルギー確保に関して、どう考えているか。

- ・ 「自治体単位等、地域で自立したエネルギーを確保すべき」（44.4%）が最も多く、次いで、「エネルギー供給者の責任においてエネルギーを確保すべき」（28.9%）、「個々の事業所で自立したエネルギーを確保すべき」（15.6%）と続く。

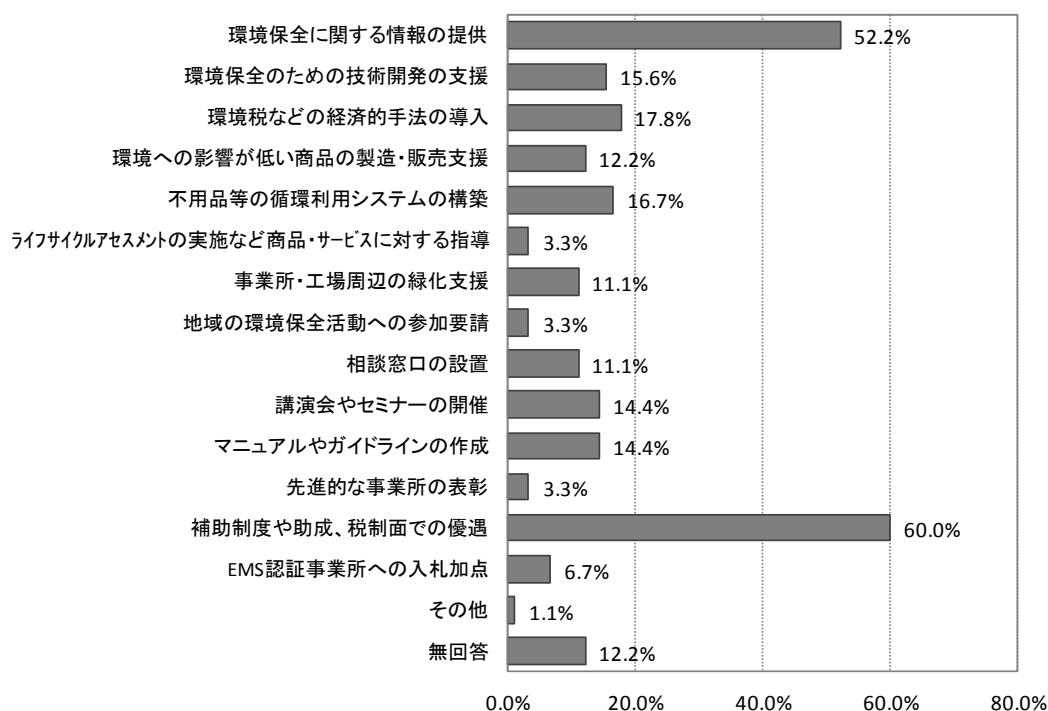


その他	
事業所の規模により限界がある	1家に1台浄水器、災害時少しの水は確保できる。阪神大震災の時実感した

問15. 今後、事業所が環境や地球温暖化に関する取り組みを進める際に、市にどのような支援を期待しているか。

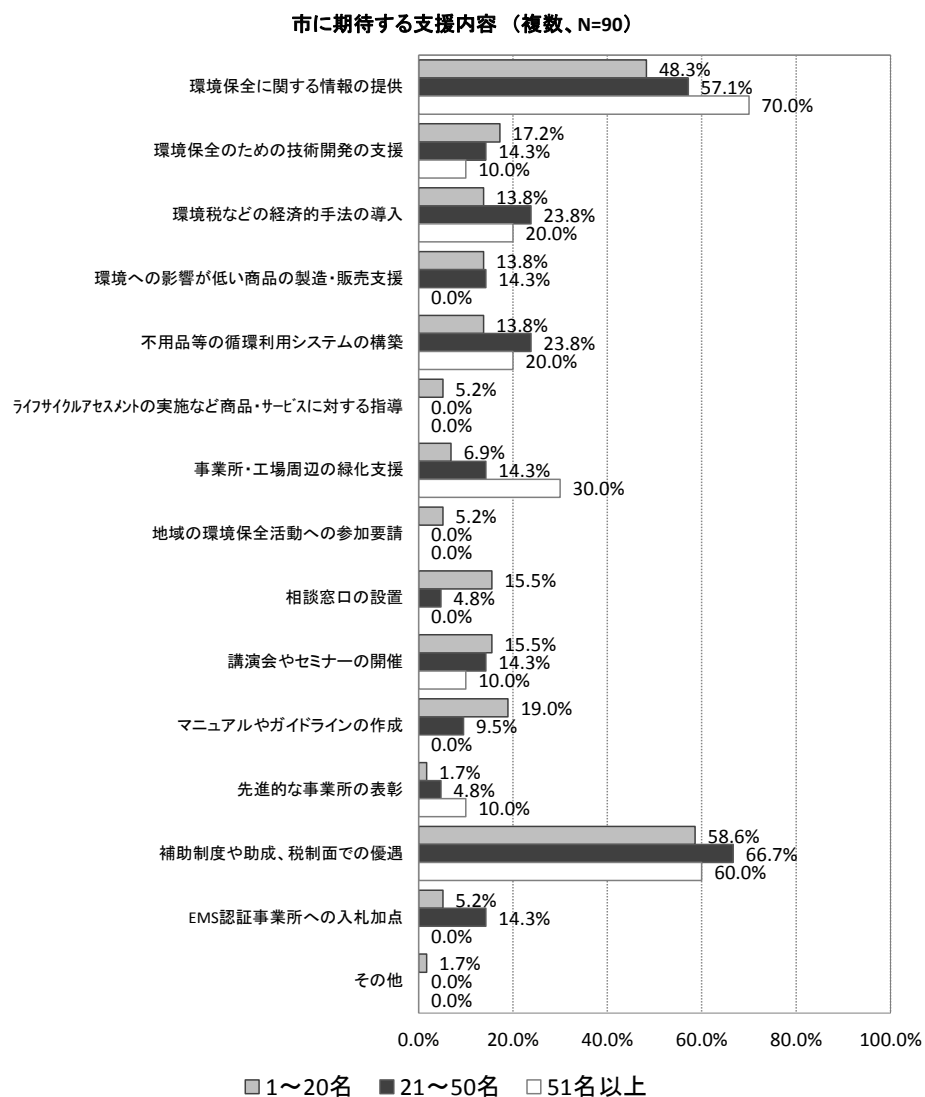
- ・ 「補助制度や助成、税制面での優遇」(60.0%) が最も多く、次いで、「環境保全に関する情報の提供」(52.2%)、次いで、「環境税などの経済的手法の導入」(17.8%)、「ライフサイクルアセスメントの実施など商品・サービスに対する指導」(16.7%)、「環境保全のための技術開発の支援」(15.6%) と続く。
- ・ 半数以上の事業者が、環境への取組みに対して、補助制度や助成等での優遇、環境に関する情報提供の支援を期待している。
- ・ 従業員数別にみると、「1～20 名」、「21～50 名」においては、半数以上が「補助制度や助成、税制面での優遇」と回答しており、最も多い。
- ・ 「50 名以上」においては、約 7 割以上が「環境保全に関する情報の提供」と回答しており、最も多い。

市にどのような支援を期待しているか (複数、N=90)



その他
何もしなくてもよい

[従業員数別]



問16. 自由意見

自由意見は以下のとおり。助成や取り組み紹介による市の支援等のご意見も寄せられている。

〔生活環境について〕

- ・ 道路の拡張と歩道づくり、市街地の緑化。
- ・ 降雪が多く雪の移動場所が少ないため、積もった雪の移動をお願いしたい。降雪による水の氾濫に備えてほしい。
- ・ 早急に河川の汚染を改善すべき。省エネ、CO2削減も重要であるが、生物が生存する基本的条件である水をきれいにしたい。下水道が整備されていない地域の河川の汚染がひどい。何でも垂れ流しになっている→たまに大量に魚が死んでいるのを見かける事がありました。

〔地球温暖化対策について〕

- ・ 市役所内部署が市内に点在し、時間、燃料等の浪費など環境を悪くしている。先ず自らが集中管理できる体制作りから。
- ・ 潮力発電など海水を利用した発電など出来れば、市のPRにもなると思います。日本一の蓄電の町（市）おこし！！。
- ・ 先ず、市の全施設の無駄なエネルギー（電気）を削減することを勧めます。無くても不便に感じないもの、特に飲料の自動販売機を撤去。お手本を示す。これが市民へのアピールとなり全国規模に広がる。すべて撤去すれば原発2基不要になる事を理解してほしい（市長に報告済み）。
- ・ 米国が「パリ協定」から脱退するようですが、色々と影響がありそうだと思います。
- ・ 1軒に一本の桑の木を植える運動、葉茶になり実を食べ（アントシアニン多し）、酸素の発生力大なり（全戸になると素晴らしい、CO2削減と酸素発生に役立ちます）。

〔廃棄物処理について〕

- ・ 私は旧町時代から40年清掃業をさせて頂いている者ですが、環境・地球温暖化もいいですが、もう少し基本的な事から正して頂かないと事業所としては営業活動も十分に出来ていません。一般的に廃棄物には一般廃棄物と産業廃棄物があり、京丹後市には一般廃棄物収集運搬許可を頂いて事業所として商売をさせて頂いておりますが、旧町から市に廃棄物処理行政が合併する際に誤った処理の仕方が市民の方々に伝わり、事業で発生した廃棄物に関しては市のゴミステーションに出すのではなく事業所独自でクリーンセンターへの持ち込みか収集運搬許可業者に委託して処理をする事になっています。しかし現実には七割以上の事業所方々は市の指定袋で出せばわからない・少量だから・紙くずだから・分別をして出せばかまわない・旧町の時、行政に問い合わせをしたら担当者が指定袋に入れて出して頂けばいいですと聞いています。と言う回答を聞くことが常になっております。行政の方々はそんな事は常識ですと考えると思いますが、全く現実とは違います。大手銀行や自動車店・飲食店・美容・あらゆる職種の方々が何の罪もなくやっている事です。私が営業に伺ってもお客様になぜわざわざお金を出してごみの回収をお願いしなければならないのかとおしかりを受けることもあります。まだまだ、各事業所のゴミに対する意識レベル低いままですよ。京丹後市より事業所系一般廃棄物収集運搬の許可を頂き商売を行っているものとしては、京丹後市廃棄物の処理及び清掃に関する条例施行規則を守り商売をさせて頂いていますので行政としても条例施行規則の環境づくりをして頂くのが当然の事だと思います。行政としてごみの分別基準に対してのお願いなどは広報などで行っていますが、事業所などに対しての意識調査やアンケートなどを実施し、現状の把握をして下さい。何年か前、市議会議員との話し合いの中で市民課長との話し合

いの時間を頂く機会がありましたが、その当時、市民課長さんと市民部長さんに対応をして頂き不法投棄の件・無許可業者の件・市廃棄物収集運搬の入札の件・今回の事業所の廃棄物処理に対する意識調査の件などのお話をさせて頂きましたが、回答は、(不法投棄・無許可業者)行政は許可は出しますが取り締まりは出来ない、取り締まりは警察だ!、(市廃棄物収集運搬の入札の件)無言、(事業所の廃棄物の処理の件)職員がいない。市の広報にのせても効果がない、予算がない。と、全くやる気がなく京丹後市行政の考え方を疑うような回答でした。その後、色々な場所で色々な方々にお話をする機会がございましたが、誰もが行政の対応の対応にあきれています。少しでも市民からの声に対応していくのが行政の仕事ではないのでしょうか?また、旧町時代の市廃棄物の委託業者は市民が分別した資源ごみを処理センターには運搬せず、自社の事業者持ち帰り個人の利益にしていると良く聞きました。今現在もこのようなことが行われてはいませんか?、今の京丹後市の委託業者の選定の基準や選び方など入札も行わずまったく不透明であり、市民からの疑いを受けるものではないのでしょうか。何十年も同じ業者が委託業者として特別扱いを受け業務を行っていること自体が間違っていないですか?、やはり行政はおおやけにならないと改善が出来ないのでしょうか?、清掃組合というグループを作っていますが、ほとんどの方が談合組合と思っているのではないですか。この様な矛盾や不公平な環境を少しでも正してもらふ事や正しいことは正しい、間違っている事は間違っていると判断出来る行政が市民の為になり、より良い京丹後市になるのではないのでしょうか。

〔その他〕

- ・ 市が先頭に立ってやる。
- ・ 市がどの様に環境問題を考え、住民に協力、どのようにアピールをしていくかが大切だと思う。こちらが積極的に調べなくても、市が何をやろうとしているかが伝わりやすい環境を整える事が必要だと思います。